

別表第4 施工管理記録様式

目 次

様 式	名 称
	(出来形管理関係)
1	出来形管理図表 品質管理図表 (表紙)
2-1	出 来 形 管 理 図 表
2-2	度 数 表
3-1	測 定 結 果 一 覧 表
3-2	鋼管溶接測定結果一覧表
3-3	鋼管溶接、塗覆装点検表
3-4	管水路ジョイント間隔測定結果一覧表
3-5	埋設とう性管たわみ量管理表
3-6	鉄筋組立検査結果一覧表
4	杭 打 ち 成 績 表
	(コンクリート関係)
5	セメントの密度試験 (JIS R 5201)
6-1	セメントの粉末度試験 (比表面積試験) (JIS R 5201)
6-2	セメントの粉末度試験 (網ふるい試験) (JIS R 5201)
7	セメントの凝結試験 (JIS R 5201)
8	セメントの安定性試験 (JIS R 5201)
9	セメントの強さ試験 (JIS R 5201)
10	細骨材の密度および吸水率試験 (JIS A 1109)
11	粗骨材の密度および吸水率試験 (JIS A 1110)
12	細骨材の表面水率試験 (JIS A 1111)
13-1	骨材のふるい分け試験 (細骨材) (JIS A 1102)

様式	名 称	
13-2	骨材のふるい分け試験 (粗骨材)	(JIS A 1102)
14	骨材試験成績一覧表	
15	コンクリートのスランプ試験およびフレッシュコンクリートの空気量の圧力による試験(空気室圧力方法)	(JIS A 1101) (JIS A 1128)
16	コンクリートの圧縮強度試験	(JIS A 1108)
17	コンクリートの曲げ強度試験	(JIS A 1106)
18	フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験	(JIS A 5308) (JIS A 1144)
19	骨材のアルカリシリカ反応性試験 (化学法)	(JIS A 5308) (JIS A 1145)
20	骨材のアルカリシリカ反応性試験 (モルタルバー法)	(JIS A 5308) (JIS A 1146)
21	鉄筋の曲げ試験	(JIS G 3112) (JIS Z 2248)
22	鉄筋の引張試験	(JIS G 3112) (JIS Z 2241)
	(土質関係)	
23	土の含水比試験	(JIS A 1203) (JGS 0121)
24-1	砂置換法による土の密度試験 (較正)	(JIS A 1214)
24-2	砂置換法による土の密度試験 (測定)	(JIS A 1214)
25	土の収縮定数試験	(JIS A 1209) (JGS 0145)
26-1	C B R 試験 (初期状態、吸水膨張試験)	(JIS A 1211) (JGS 0721)
26-2	C B R 試験 (貫入試験)	(JIS A 1211) (JGS 0721)
26-3	C B R 試験 (室内試験結果)	(JIS A 1211) (JGS 0721)
27	修正 C B R 試験	
28	現場 C B R 試験	(JIS A 1222)
29	道路の平板載荷試験	(JIS A 1215)
30	土の直接せん断試験	

様式	名 称
3 1	ポータブルコーン貫入試験 (JGS 1431)
3 2	締固めた土のコーン指数試験 (JIS A 1228) (JGS 0716)
3 3-1	土の一軸圧縮試験 (初期状態、軸圧縮過程) (JIS A 1216) (JGS 0511)
3 3-2	土の一軸圧縮試験 (強度・変形特性) (JIS A 1216) (JGS 0511)
3 4-1	土の液性限界・塑性限界試験 (測定) (JIS A 1205) (JGS 0141)
3 4-2	土の液性限界・塑性限界試験 (試験結果) (JIS A 1205) (JGS 0141)
3 5	土粒子の密度試験 (検定、測定) (JIS A 1202) (JGS 0111)
3 6-1	土の粒度試験 (ふるい分析) (JIS A 1204) (JGS 0131)
3 6-2	土の粒度試験 (2mmふるい通過分分析) (JIS A 1204) (JGS 0131)
3 6-3	土の粒度試験 (粒径加積曲線) (JIS A 1204) (JGS 0131)
3 7-1	突固めによる土の締固め試験 (測定) (JIS A 1210) (JGS 0711)
3 7-2	突固めによる土の締固め試験 (締固め特性) (JIS A 1210) (JGS 0711)
	(アスファルト関係)
3 8	アスファルト試験成績一覧表
3 9	アスファルトの粘度温度表
4 0	粗骨材試験成績一覧表 (碎石)
4 1	細骨材試験成績一覧表 (砂)
4 2	石粉及びスクリーニングス試験成績一覧表
4 3	骨材粒度曲線表 (アスファルト)
4 4	合材粒度ふるい分け試験及び配合比決定例
4 5	骨材の推定変動範囲 (細骨材及びスクリーニングス)
4 6	骨材配合率の密度補正

様式	名 称
47	骨材配合率及び合成粒度 (室内試験)
48	合成粒度曲線 (室内試験)
49	試験配合表 (アスファルト量別)
50-1	アスファルト混合物の安定度試験 (マーシャル式・理論最大密度)
50-2	アスファルト混合物の安定度試験 (マーシャル式)
51	試験結果図表
52	マーシャル試験による基準アスファルト量
53	フィーダ、ホットビン、ミキサーの骨材の粒度試験
54	粗骨材のすりへり試験 (JIS A 1121)
55	アスファルトの抽出試験
56	路面の平坦性試験表 (標準偏差)
57	プルーフローリング試験
	(品質管理関係)
58-1	$\bar{X} - R$ 管理データシート
58-2	$\bar{X} - R$ 管理データシート
58-3	$\bar{X} - R$ 管理図
59-1	$X - R_s - R_m$ 管理データシート
59-2	$X - R_s - R_m$ 管理データシートの2
60	$X - R_s - R_m$ 管理図

(出来形管理関係)

様式 1

	平成 年度 _____ 工事 _____		
	出来形管理図表		
	品質管理図表		
種 目		事業所	
		支所	
		受注会社名	

注) 1. 出来形(品質)管理図表は、本表紙様式により、工種毎に綴るものとする。ただし、小規模工事については、監督職員の承認を得て、全工種分を一括綴りとすることができる。

2. 種目は、基準高、厚さ、幅等と記入する。

出来形管理図表

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

管理基準値 A		規格値 B		測定 単位
+	-	+	-	

番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値との差 E=D-C	管理基準 値との差 F= A - E	設計値との差

<p>記入事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「工種名」は、掘削(基準高(V))、フルーム(厚さ(T))、橋台工(中心線のズレ(e))等と記入する。 2. 「番号」の欄は、施工順位を記入し、「測点」の欄は当該測点番号を記入する。 3. 「月日」の欄は測定年月日を記入する。 4. 設計値との差の単位を定め、目盛りに数値を記入する。 5. Fを算出する A 値は、E>0の場合は+側の値を、E≤0の場合は-側の値を用いる。また、 A 値が+側か-側の片方、若しくは両方ない場合は、その符号側はF= E とする。 	<p>測定箇所図</p>
---	--------------

様式 2-2

度 数 表

工 事 名
工 種 名
平 成 年 月 日 現 在
受 注 会 社 名
測 定 者
印

度 数 (回)																					← (一) → 設 計 値 と の 差 → (+)

注) 出来形管理で20点以上の場合使用する。

様式 3-2

鋼管溶接測定結果一覧表

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

測定位置	実 測 値				管理基準値	摘 要
	X	Y	X'	Y'		

様式 3-3

鋼管溶接、塗覆装点検表

工事名 _____

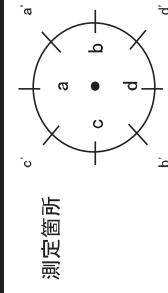
受注会社名 _____

測定者 _____ 印

測定位置	工種	項目	判定		摘要
			良	否	

管水路ジョイント間隔測定結果一覧表

工事名	受注会社名												印						
	管種名 (呼び径)	測定年月日	測定位置 (管番号)	測定値(接合時)				管理基準値	判定	備考	測定年月日	測定値(埋戻後)				(参考) 規格値	判定	備考	
				a	b	c	d					平均		a	b				c



- 注 1. 管理基準値は接合時の値であり、4箇所平均とする。
 2. (参考)規格値は埋戻し後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。
 3. 測定は、呼び径700mm以下の場合は管の外から測定しても良い。
 また、埋戻し後の測定は、原則として呼び径700mm以下の測定は必要ない。
 4. 管の外から測定する場合は測定位置は、a、b、c、dの位置とする。
 5. 強化プラスチック複合管のD形の場合は、受口側と挿口側を各々測定すること。

<記載例>

測定位置		測定値				平均
NO.00	(受口側/挿口側)	a	b	c	d	
〃	挿口側					
	受口側					

(参考)
 標線による計測 ジョイント間隔=受け口長_{l1}- (標線長h)-測定長x₁
 標線によらない計測 ジョイント間隔=受け口長_{l2}- (管有効長L)-測定長x₂

様式 3-5

埋設とう性管たわみ量管理表

工事名 _____ 受注会社名 _____

管種(長さ) _____ 測定者 _____ 印 _____

測定位置 (管番号)	管据付時				管頂埋戻し時				埋戻し完了時				D+t(mm) (内径)(管厚)
	D _U mm	たわみ率 %	D _h mm	たわみ率 %	D _U mm	たわみ率 %	D _h mm	たわみ率 %	D _U mm	たわみ率 %	D _h mm	たわみ率 %	

たわみ率の計算

$$\frac{\Delta X}{2R} \times 100(\%)$$

$$\Delta X = [2R - (D_U + t)] \text{ 又は } [2R - (D_h + t)]$$

2R: 管厚中心直径

t: 管厚

- 注) 1. マーキング位置における測定値を記入する。
 2. 測定については「土木工事施工管理基準」別表第1 直接測定による出来形管理 管水路工事 管水路(埋設とう性管)の測定基準による。
 3. 矢板引抜き時の測定は、「管頂埋戻し時」の欄に測定値を記入する。

鉄筋組立検査結果一覧表

工事名： _____
 工種名： _____

受注会社名： _____

番号	測定年月日	径(mm)及び本数(本)		中心間隔(mm)		かぶり(mm)		組立状況(継手長、曲げ状況、結束等)		備考
		設計値	判定	設計値	判定	設計値	判定	判定	判定	

測定箇所： (設計上の位置及び名称) _____

- 記入事項
- かぶりの許容誤差は±φかつ最小かぶり以上とする。
 - 鉄筋間隔の許容誤差は±φとする。
 - 判定欄は合格、不合格を記入する。

測定者 _____ 印

様式 4

杭打ち成績表

工事名 : _____

受注会社名 : _____

工種名 : _____

測定者 _____ 印

杭打込み 月 日	杭番号	杭規格	測定時 杭深度(m)	ハンマー 落下高(cm)	打込回数	リバウンド (cm)	平均沈下 量(cm)	支持力(kN)	摘要

杭配置図

適用公式名 : _____

設計支持力 : _____

(コンクリート関係)

様式 5

セメントの密度試験
(JIS R 5201)

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試験日	平成	年	月	日	曜	天候
試験日の状態	室温 (°C)		湿度 (%)		水温 (°C)	
試料						
測定番号	1	2	3	4		
① フラスコの番号						
② 初めの鉢油の読み (ml)						
③ 試料の質量 (g)						
④ 試料と鉢油の読み (ml)						
⑤ 密度 $\frac{\text{③}}{\text{④} - \text{②}}$						
⑥ 許容差						
⑦ 平均値						
考察					

様式 6-1

セメント粉末度試験(比表面積試験)
(JIS R 5201)

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試験日	平成	年	月	日	曜	天候
試験日の状態	室温(℃)			湿度(%)		
試料						
①セルと水銀との質量(g)						
②セルの質量(g)						
③水銀の質量①-②(g)						
④(セル)+(セメント)+(水銀)の質量(g)						
⑤(セル)+(セメント)の質量(g)						
⑥水銀の質量④-⑤(g)						
⑦水銀の密度(g/cm ³)						
⑧ベットの体積 $\frac{③-⑥}{⑦}$ (cm ³)						
⑨平均値						
測定番号	1	2	3	4		
試料の質量(g)						
標準試料降下時間 t ₀ (s)						
標準試料比表面積 (cm ² /g)						
セメント降下時間 t (s)						
セメント比表面積 (cm ² /g)						
許容差						
平均値						
考察						

様式 8

セメントの安定性試験
(JIS R 5201)

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試験日	平成	年	月	日	曜	天候
試験日の状態	室 温 (°C)				湿 度 (%)	水 温 (°C)
養生温度(°C)						
試 料						
測 定 番 号			1	2	3	4
試 料 の 質 量 (g)						
水 の 量 (ml)						
ひび割れ・反りの有無						
試験結果						
考 察						

様式 9

セメントの強さ試験
(JIS R 5201)

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試験日		平成年月日	平成年月日	平成年月日	平成年月日	
試験日の状態	室温 (°C)					
	湿度 (%)					
養生温度 (°C)						
材 齢 (日)						
供試体質量 (g) (脱型直後)	1					
	2					
	3					
供試体質量 (g) (強さ試験直前)	1					
	2					
	3					
曲 げ 試 験	最大荷重 (N)	1				
		2				
		3				
	曲げ強さ (N/mm ²)	1				
		2				
		3				
平均値 (N/mm ²)						
圧 縮 試 験	最大荷重 (N)	1				
		2				
		3				
		4				
		5				
		6				
	圧縮強さ (N/mm ²)	1				
		2				
		3				
		4				
		5				
		6				
平均値 (N/mm ²)						
供試体作製日 : 平成 年 月 日						

様式 12

細骨材の表面水率試験
(JIS A 1111)

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

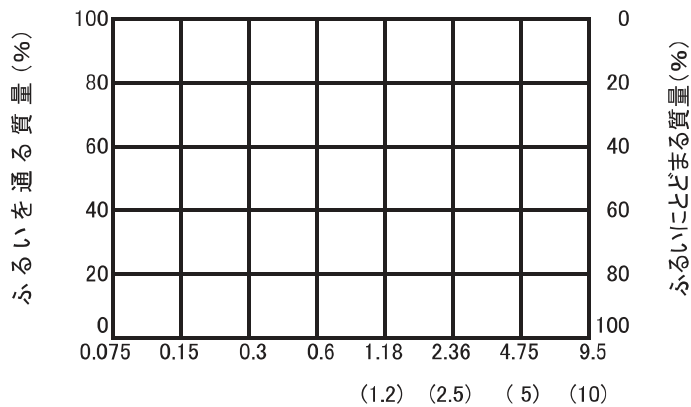
試験日	平成 年 月 日 曜 天候			
試験日の状態	室温 (°C)	湿度 (%)	水温 (°C)	
試料				
	d _s : 試料の表面乾燥密度 = g/cm ³			
測定番号	1	2	3	4
① 試料の質量 m ₁ (g)				
② (フラスコ)+(マークまでの水)の質量 m ₂ (g)				
③ (フラスコ)+(マークまでの水) +(試料)の質量 m ₃ (g)				
④ m=①+②-③ (g)				
⑤ ms = $\frac{\text{①}}{d_s}$				
⑥ 表面水率 $H = \frac{\text{④}-\text{⑤}}{\text{①}-\text{④}} \times 100$ (%)				
⑦ 平均値 (%)				
⑧ 平均値との差 (%)				
⑨ 試料を覆う水量 V ₁ (mL)				
⑩ (試料)+(水)の容積 V ₂ (mL)				
⑪ V=⑩-⑨ (g)				
⑫ 表面水率 = $H = \frac{\text{⑪}-\text{⑤}}{\text{①}-\text{⑪}} \times 100$ (%)				
⑬ 平均値 (%)				
⑭ 平均値との差 (%)				
考察				

様式 13-1

骨材のふるい分け試験（細骨材）
(JIS A 1102)

工事名 _____ 受注会社名 _____
 工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試験日	平成 年 月 日 曜 天候				
試験日の状態	室温 (°C)		湿度 (%)		
試料					
ふるいの呼び寸法 (mm)	各ふるいにとどまる質量の累計		各ふるいにとどまる質量		ふるいを通る質量
	(g)	(%)	(g)	(%)	(%)
9.5 (10)					
4.75 (5)					
2.36 (2.5)					
1.18 (1.2)					
0.6					
0.3					
0.15					
0.075					
受皿					
計					
粗粒率					



ふるいの呼び寸法(mm)、※()は従来の呼び寸法

ふるい分け曲線

考 察 _____

様式 13-2

骨材のふるい分け試験(粗骨材)
(JIS A 1102)

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試験日	平成 年 月 日 曜 天候				
試験日の状態	室温 (°C)			湿度 (%)	
試料					
ふるいの呼び寸法 (mm)	各ふるいにとどまる質量の累計		各ふるいにとどまる質量		ふるいを通る質量
	(g)	(%)	(g)	(%)	(%)
最大寸法 (mm)			粗粒率		
<p>ふるいの呼び寸法(mm)、※()は従来の呼び寸法 ふるい分け曲線</p>					考 察

様式 14

骨材試験成績一覧表

工事名 _____ 受注会社名 _____
 工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試料採取地名										
試験日										
ふる い 分 け	粗 骨 材	150mm以上通過質量百分率%								
		150 ~ 100 "								
		100 ~ 80 "								
		80 ~ 60 "								
		60 ~ 50 "								
		50 ~ 40 "								
		40 ~ 30 "								
		30 ~ 25 "								
		25 ~ 20 "								
		20 ~ 15 "								
		15 ~ 10 "								
		10 ~ 5 "								
	5以下 "									
		粗粒率								
	細 骨 材	細 骨 材	5mm以上通過質量百分率%							
			5 ~ 2.5 "							
			2.5 ~ 1.2 "							
			1.2 ~ 0.6 "							
0.6 ~ 0.3 "										
0.3 ~ 0.15 "										
	0.15以下 "									
	粗粒率									
細 骨 材	細 骨 材	密度								
		単位容積質量(標準) kg/m ³								
		単位容積質量(軽装) kg/m ³								
		安定性 %								
		吸水試験 %								
粗 骨 材	粗 骨 材	密度								
		単位容積質量(標準) kg/m ³								
		単位容積質量(軽装) kg/m ³								
		安定性 %								
		吸水試験 %								
		すりへり減量 %								
		洗い試験 %								
		軟石量試験 %								
細長扁平試験 %										
備考										

様式 15

コンクリートのスランプ試験およびフレッシュコンクリートの
空気量の圧力による試験(空気室圧力方式)
 (JIS A 1101、JIS A 1128)

工事名 _____ 受注会社名 _____
 工種名 _____ 測定者 _____ 印

試験日	平成 年 月 日 曜 天候												
試験日の状態	室温 (°C)				湿度 (%)				水温 (°C)				
試料													
示方配合	粗骨材の最大寸法 (mm)	スランプ (cm)	水セメント比 W/C (%)	空気量 (%)	細骨材率 s/a (%)	単位量 (kg/m ³)						粗骨材G mm mm mm	混和剤 (g/m ³)
						水	セメント	混和材	細骨材				
						W	C	F	S				
測定番号	1				2				3				
① スランプ (cm)													
② 突き棒でコンクリートの側面をたたいたときの状態													
③ 見掛けの空気量 (%)													
④ 骨材修正係数 (%)													
⑤ 空気量 ③-④ (%)													
⑥ コンクリートの温度 (°C)													
考察													

様式 16

コンクリートの圧縮強度試験
(JIS A 1108)

工事名 _____ 受注会社名 _____
 工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試験日	平成 年 月 日 曜 天候													
試験日の状態	室温 (°C)			湿度 (%)				水温 (°C)						
試料														
示方配合	粗骨材 の最大 寸法 (mm)	スランブ (cm)	水セメ ント比 W/C (%)	空気 量 (%)	細骨 材率 s/a (%)	単 位 量 (kg/m ³)						粗骨材G		混和剤 (g/m ³)
						水	セメント	混和 材	細骨 材	mm	mm			
						W	C	F	S	mm	mm			
材 齢 (日)														
養生方法							養生温度 (°C)							
供試体番号	1		2			3			4					
平均直径 (mm)														
断面積 (mm ²)														
平均高さ (mm)														
スランブ (cm)														
質 量 (kg)														
最大荷重 (N)														
圧縮強度 (N/mm ²)														
平均圧縮強度 (N/mm ²)														
見掛け密度 (kg/m ³)														
平均見掛け密度 (kg/m ³)														
供試体の破壊状況の スケッチ														
考 察														

様式 17

コンクリートの曲げ強度試験
(JIS A 1106)

工事名 _____ 受注会社名 _____
 工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試験日	平成 年 月 日 曜 天候												
試験日の状態	室温 (°C)			湿度 (%)				水温 (°C)					
試料													
示方配合	粗骨材の最大寸法 (mm)	スランブ (cm)	水セメント比 W/C (%)	空気量 (%)	細骨材率 s/a (%)	単 位 量 (kg/m ³)						粗骨材G mm ? mm	混和剤 (g/m ³)
						水	セメント	混和材	細骨材				
	W	C	F	S									
材 齢 (日)													
養生方法						養生温度 (°C)							
供試体番号	1		2			3			4				
平均幅 (mm)													
平均高さ (mm)													
スパン (mm)													
最大荷重 (N)													
曲げ強度 (N/mm ²)													
平均曲げ強度 (N/mm ²)													
破壊断面とこれに近い支点との距離 (mm)													
供試体の破壊状況のスケッチ													
考 察													

様式 18

フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験
(JIS A 5308, JIS A 1144)

工事名		平成 年 月 日		天 候		受注会社名					
工種名		採取方法		測定者		印					
試験日		保管方法									
試験料	粗骨材の最大寸法 (mm)		スランプの範囲 (cm)	空気量の範囲 (%)	水セメント比 (%)	細骨材率 (%)	水	セメント	粗骨材	粗骨材	混和材料
									~	~	
									mm	mm	
示方配合										単位容積質量 (kg/m³)	
測定内容		分析方法									
測定回数		測定器名及び指示薬									
塩化物イオン濃度 (%)		1		2		3		平均			
塩化物物質量 (kg/m³)										判定基準	
								以下		測定場所	
								現場		工場	

様式 19

骨材のアルカリシリカ反応性試験（化学法）
 (JIS A 5308、JIS A 1145)

工事名		受注会社名		測定者		印	
工種名		日		平成		年月日	
試験	骨材の種類	アルカリ濃度減少量(Rc) (mmol/l)		溶解シリカ量 (Sc) (mmol/l)		原子吸光度法	
	骨材の産地	V ₁ (ml)	V ₂ (ml)	V ₃ (ml)	Rc	平均値	平均値
繰返し	試料量 (g)	反応時間 (hf)		吸光度法		原子吸光度法	
1		V (ml)	C (mg/l)	W (g)	Sc	C (mg/l)	Sc
2		平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値
3							
1							
2							
3							
1							
2							
3							
備考							

様式 20

骨材のアルカリシリカ反応性試験(モルタルバー法)
(JIS A 5308、JIS A 1146)

工事名 _____ 受注会社名 _____
 工種名 _____ 測定者 _____ 印

試験日	平成 年 月 日 曜 天候						
試験日の状態	気温 (°C)	室温 (°C)	容器内温度 (°C)	容器内湿度 (%)			
セメント	種別 全アルカリ						
骨材	産地 種別						
区分	材 齢	脱型時	2週間	4週間	8週間	3ヶ月	6ヶ月
① 基長 L (有効ゲージ長) ($\times 10^{-3}$ mm)	1						
	2						
	3						
② 供試体脱型時のダイヤルゲージの読み X_{ini} ($\times 10^{-3}$ mm)	1						
	2						
	3						
③ 同時測定した標準尺のダイヤルゲージの読み sX_{ini} ($\times 10^{-3}$ mm)	1						
	2						
	3						
④ 材齢における供試体のダイヤルゲージの読み X_i ($\times 10^{-3}$ mm)	1						
	2						
	3						
⑤ 材齢における標準尺のダイヤルゲージの読み sX_i ($\times 10^{-3}$ mm)	1						
	2						
	3						
⑥ 膨張率 (%) $\frac{④-⑤}{L} - \frac{②-③}{L} \times 100$	1						
	2						
	3						
	平均						
判定							
精度							
考察							

様式 22

鉄筋の引張試験
(JIS G 3112、JIS Z 2241)

工事名 _____ 受注会社名 _____
 工種名 _____ 測定者 _____ 印

試験日	平成 年 月 日 曜 天候							
試験日の状態	気温 (°C)				室温 (°C)			
試験料								
試験料番号								
呼び径 (mm)								
実測径 (mm)	最大径							
	最小径							
	平均							
断面積 (mm ²)								
種別								
記号								
標点距離 (mm)								
降伏点荷重 (N)								
降伏点 (N/mm ²)								
引張荷重 (N)								
引張強さ (N/mm ²)								
伸び	(mm)							
	(%)							
切断位置による記号								
試験片								
判定								
考察								

(土質関係)

様式 23

土の含水比試験
(JIS A 1203、JGS0121)

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 受注会社名 _____
工種名 _____ 試料採取地点 _____ 測定者 _____ 印 _____

試料番号(深さ)						
容器 NO.						
m _a	g					
m _b	g					
m _c	g					
w	%					
平均値 w	%					
特記事項						

試料番号(深さ)						
容器 NO.						
m _a	g					
m _b	g					
m _c	g					
w	%					
平均値 w	%					
特記事項						

試料番号(深さ)						
容器 NO.						
m _a	g					
m _b	g					
m _c	g					
w	%					
平均値 w	%					
特記事項						

試料番号(深さ)						
容器 NO.						
m _a	g					
m _b	g					
m _c	g					
w	%					
平均値 w	%					
特記事項						

試料番号(深さ)						
容器 NO.						
m _a	g					
m _b	g					
m _c	g					
w	%					
平均値 w	%					
特記事項						

$$w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

m_a : (試料+容器)質量
m_b : (炉乾燥試料+容器)質量
m_c : 容器質量

(社)地盤工学会規格準用

様式 24-1

砂置換法による土の密度試験(校正)
(JIS A 1214)

工事名 _____ 受注会社名 _____ 試験日 平成 年 月 日

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

I. ジャーとピクノメータートップとの体積の校正

測定 NO.	1	2	3	4	5
ジャーとピクノメータートップに水を満たした質量 m_2 g					
測定器の質量 m_1 g					
満たした水の質量 $m_2 - m_1$ g					
測定器中の水の温度 t °C					
t °Cにおける水1g当たりの体積 K cm ³ /g					
ジャーとピクノメータートップとの体積 $V_1 = K(m_2 - m_1)$ cm ³					
平均値 V_1 cm ³					

II. 試験用砂の乾燥密度の校正

測定 NO.	1	2	3	4	5
ジャーとピクノメータートップに砂を満たした質量 m_3 g					
測定器の質量 m_1 g					
測定器中の砂の質量 $m_4 = m_3 - m_1$ g					
試験用砂の乾燥密度 $\rho_{ds} = m_4 / V_1$ g/cm ³					
平均値 ρ_{ds} g/cm ³					

III. 漏斗を満たすのに必要な砂の質量の校正

測定 NO.	1	2	3	4	5
測定器と入れた砂の質量 m_3' g					
漏斗を満たした砂を除き測定器と残った砂の質量 m_5 g					
漏斗を満たすのに必要な砂の質量 $m_6 = m_3' - m_5$ g					
平均値 m_6 g					

特記事項

(社)地盤工学会規格準用

様式 24-2

砂置換法による土の密度試験(測定)
(JIS A 1214)

工事名 _____ 受注会社名 _____ 試験日 平成 年 月 日

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

	測定器 NO.		土質名称
	試験用砂の乾燥密度 ρ_{ds}	g/cm ³	漏斗を満たすのに必要な砂の質量 m_6 g
	試験孔 NO.		
	最大粒径	mm	
	容器 NO.		
	容器質量	g	
	(試験孔から取り出した土 + 容器) 質量	g	
	試験孔から取り出した湿潤土の質量 m_7	g	
	試験孔から取り出した土の炉乾燥質量 $m_0=100m_7/(w+100)$	g	
	ジャーとピクノメータートップに砂を満たした質量 m_3	g	
	測定器と残った砂の質量 m_8	g	
	試験孔および漏斗に入った砂の質量 $m_9=m_3-m_8$	g	
	試験孔を満たすのに要する砂の質量 $m_{10}=m_9-m_6$	g	
	試験孔の体積 $V_0=m_{10}/\rho_{ds}$	cm ³	
	湿潤密度 $\rho_t=m_7/V_0$	g/cm ³	
	乾燥密度 $\rho_d=m_0/V_0$	g/cm ³	
含	容器 NO.		
	(試料 + 容器) 質量 m_a	g	
	(炉乾燥試料 + 容器) 質量 m_b	g	
水	容器質量 m_c	g	
	w	%	
	容器 NO.		
比	(試料 + 容器) 質量 m_a	g	
	(炉乾燥試料 + 容器) 質量 m_b	g	
	容器質量 m_c	g	
	w	%	
	平均値 w	%	
平均値	含水比 w	%	
	湿潤密度 ρ_t	g/cm ³	
	乾燥密度 ρ_d	g/cm ³	

特記事項

$$w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

(社)地盤工学会規格準用

様式 25

土の収縮定数試験
(JIS A 1209、JGS 0145)

工事名 _____ 受注会社名 _____ 試験日 平成 年 月 日

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試料番号 (深さ)						
測定 NO.						
収縮皿 NO.						
湿潤試料の体積	ガラス板の質量 m_g g					
	収縮皿の質量 m_c g					
	水の入った収縮皿とガラス板の質量 m g					
	水の温度 T °C					
	水の密度 ρ_w g/cm ³					
	湿潤試料の体積 V cm ³					
炉乾燥試料の体積	パラフィン塗布後の試料の質量 m_1 g					
	水中における吊り皿の見掛けの質量 m_2 g					
	水中における試料および吊り皿の見掛け質量 m_3 g					
	炉乾燥試料の質量 m_s g					
	パラフィンの密度 ρ_p g/cm ³					
	炉乾燥試料の体積 V_o cm ³					
含水比	湿潤試料と収縮皿の質量 m_a g					
	湿潤試料の含水比 w %					
	平均値 w %					
収縮限界	収縮限界 w_s %					
	平均値 w_s %					
収縮比	収縮比 R					
	平均値 R					
ある含水比 w_1 %						
体積収縮率 C %						
線収縮 L_s %						

特記事項

$$V = \frac{(m - m_c - m_g)}{\rho_w}$$

$$w_s = w - \frac{(V - V_o)\rho_w}{m_s} \times 100$$

$$R = \frac{m_s}{V_o \cdot \rho_w}$$

$$C = (w_1 - w_s)R$$

$$V_o = \frac{(m_1 - m_3 + m_2)}{\rho_w} - \frac{(m_1 - m_s)}{\rho_p}$$

$$w = \frac{(m_a - m_c - m_s)}{m_s} \times 100$$

$$L_s = \left[1 - \sqrt[3]{\frac{100}{C + 100}} \right] \times 100$$

(社)地盤工学会規格準用

様式 26-1

CBR試験（初期状態、吸水膨張試験）
(JIS A 1211、JGS 0721)

工 事 名		試験日 平成 年 月 日		受注会社名				
試料採取地点		採取日 平成 年 月 日		測 定 者				
試 験 方 法	締固めた土、乱さない土	ランマー質量	kg	土 質 名 称				
	突き固め方法	落下高さ	cm	自然含水比 w_n %				
	試料準備方法	非乾燥法、空気乾燥法	突固め回数	回/層	最適含水比 w_{opt} %			
		空気乾燥前含水比 %	突固め層数		最大乾燥密度 ρ_{dmax} g/cm ³			
試料準備	試料調整後含水比 w_o %	モールド	内径	cm	荷重板質量	kg		
			高さ ¹⁾	cm	モールド容量 V	cm ³		
供 試 体 NO.								
含 水 比	容 器 NO.							
	(試料+容器)質量 m_a		g					
	(炉乾燥試料+容器)質量 m_b		g					
	容 器 質 量 m_c		g					
	含 水 比 w_1		%					
平 均 値 w_1		%						
密 度	(試料+モールド)質量 m_2 ²⁾		g					
	モ ー ル ド 質 量 m_1 ²⁾		g					
	湿 潤 密 度 ρ_t		g/cm ³					
	乾 燥 密 度 ρ_d		g/cm ³					
吸 水 膨 張 試 験	水 浸 時 間 h	時 刻	変位計の読み	膨張量mm	変位計の読み	膨張量mm	変位計の読み	膨張量mm
	0							
	1							
	2							
	4							
	8							
	24							
	48							
	72							
	96							
(試料+モールド)質量 m_3 ²⁾		g						
膨 張 比 γ_e		%						
湿 潤 密 度 ρ_t'		g/cm ³						
乾 燥 密 度 ρ_d'		g/cm ³						
平 均 含 水 比 w'		%						

特記事項

- 1) スペーサーディスクの高さを差引く
- 2) モールドの質量は有孔底板を含む

$$\gamma_e = \frac{\text{供試体の膨張量 (mm)}}{\text{供試体の最初の高さ (125mm)}} \times 100$$

$$\rho_t' = \frac{m_3 - m_1}{V(1 + \gamma_e/100)} \quad \rho_t = \frac{m_2 - m_1}{V}$$

$$\rho_d' = \frac{\rho_d}{1 + \gamma_e/100} \quad \rho_d = \frac{\rho_t}{1 + w_1/100}$$

$$w' = \left[\frac{\rho_t'}{\rho_d'} - 1 \right] \times 100 \quad w_1 = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

(社)地盤工学会規格準用

様式 26-2

C B R 試 験 (貫 入 試 験)
(JIS A 1211、JGS 0721)

工 事 名 _____ 試験日 平成 年 月 日 _____ 受注会社名 _____
 試料採取地点 _____ 採取日 平成 年 月 日 _____ 測 定 者 _____ 印 _____

試験条件		水浸、非水浸		貫入速度 mm/min				荷重板質量 kg							
養生条件		日 空 気 中		荷 重 計 NO.				貫入スピンドルの断面積 cm ²							
		日 水 浸		容 量 kN				較正係数 $\frac{MN/m^2}{目盛}$ $\frac{kN}{目盛}$							
供 試 体 NO.				供 試 体 NO.				供 試 体 NO.							
貫 入 量 mm		荷重強さ、荷重		貫 入 量 mm		荷重強さ、荷重		貫 入 量 mm		荷重強さ、荷重					
読み		平均	荷重計 の読み	MN/m ² kN	読み		荷重計 の読み	MN/m ² kN	読み		平均	荷重計 の読み	MN/m ² kN		
1	2				1	2			1	2					
0					0				0						
0.5					0.5				0.5						
1.0					1.0				1.0						
1.5					1.5				1.5						
2.0					2.0				2.0						
2.5					2.5				2.5						
3.0					3.0				3.0						
4.0					4.0				4.0						
5.0					5.0				5.0						
7.5					7.5				7.5						
10.0					10.0				10.0						
12.5					12.5				12.5						
貫入試験後の含水比	容器NO.				貫入試験後の含水比	容器NO.				貫入試験後の含水比	容器NO.				
	m _a g					m _a g					m _a g				
	m _b g					m _b g					m _b g				
	m _c g					m _c g					m _c g				
	w ₂ %					w ₂ %					w ₂ %				
	平均値 w ₂ %					平均値 w ₂ %					平均値 w ₂ %				

特記事項

$$w_2 = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

m_a : (試料+容器)質量

m_b : (炉乾燥試料+容器)質量

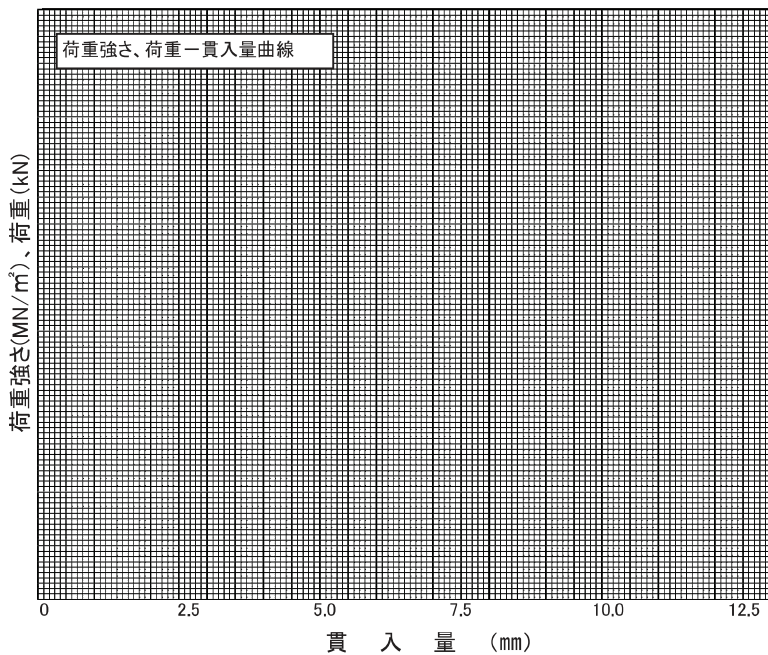
m_c : 容器質量

[1MN/m² ≒ 10.2kgf/cm²]
[1kN ≒ 102kgf]

(社)地盤工学会規格準用

CBR 試験 (室内試験結果)
(JIS A 1211、JGS 0721)

工事名		試験日 平成 年 月 日		受注会社名		
試料採取地点		採取日 平成 年 月 日		測定者 印		
試験方法	締固めた土、乱さない土	ランマー質量	kg	土質名称		
突固め方法		落下高さ	cm	空気乾燥前含水比	%	
試料の準備方法	非乾燥法、空気乾燥法	突固め回数	回/層	自然含水比 w	%	
試験条件	水浸、非水浸	突固め層数	層	最適含水比 w_{opt}	%	
養生条件	日空气中	モールド	内径	cm	最大乾燥密度 ρ_{dmax}	g/cm ³
	日水浸		高さ ¹⁾	cm		
供試体 NO.						
吸水膨張試験	前	含水比 w	%			
		乾燥密度 ρ_d	g/cm ³			
	後	膨張比 γ_e	%			
		平均含水比 w'	%			
貫入試験		試験後の含水比 w_2	%			
		貫入量 2.5mm における CBR	%			
		貫入量 5.0mm における CBR	%			
		C B R	%			



平均 CBR %

特記事項
1) スペーサーディスクの高さを差引く。

[1MN/m² ≒ 10.2kgf/cm²]
[1kN ≒ 102kgf]

貫入量 mm		2.5	5.0
荷重強さ重	供試体 NO.		
	供試体 NO.		
	供試体 NO.		
標準荷重強さ MN/m ²		6.9	10.3
標準荷重 kN		13.4	19.9

(社)地盤工学会規格準用

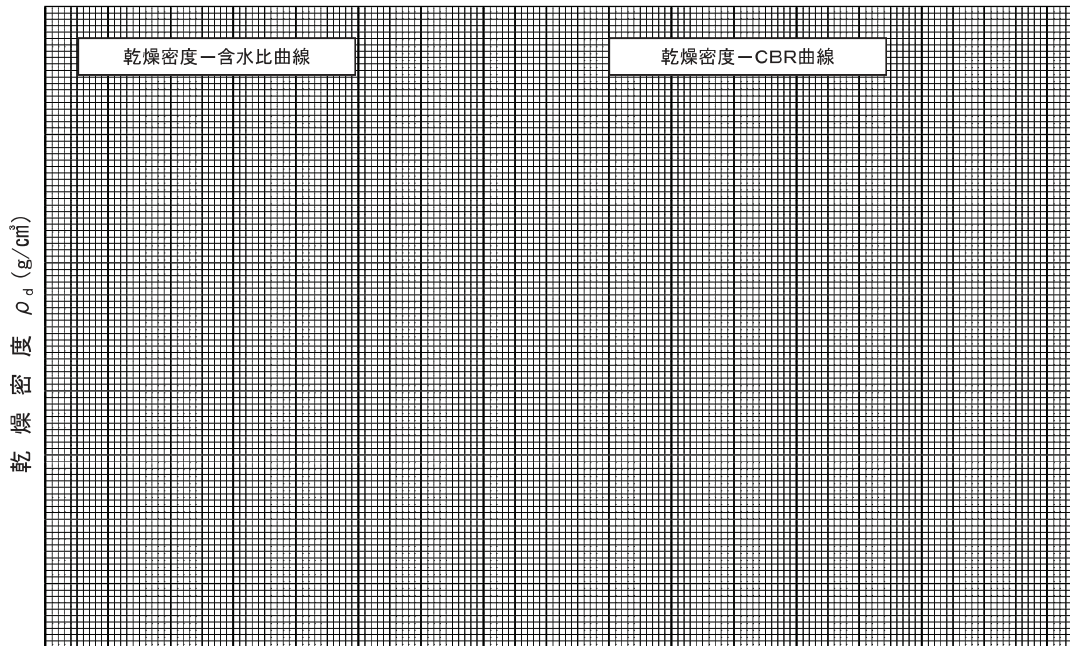
様式 27

修正 C B R 試験

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 _____ 受注会社名 _____

試料採取地点 _____ 採取日 平成 年 月 日 _____ 測定者 _____ 印 _____

突固め回数	回/層	(層)			(層)			(層)		
供試体 NO.										
乾燥密度 ρ_d	g/cm ³									
平均値 ρ_d	g/cm ³									
貫入量2.5mmにおけるCBR	%									
平均値	%									
貫入量5.0mmにおけるCBR	%									
平均値	%									
ランマー質量	kg		最大乾燥密度 ρ_{dmax}	g/cm ³		締固め度	%			
			最適含水比 w_{opt}	%		修正CBR	%			



特記事項

(社)地盤工学会規格準用

現場 C B R 試験
(JIS A 1222)

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 _____ 受注会社名 _____

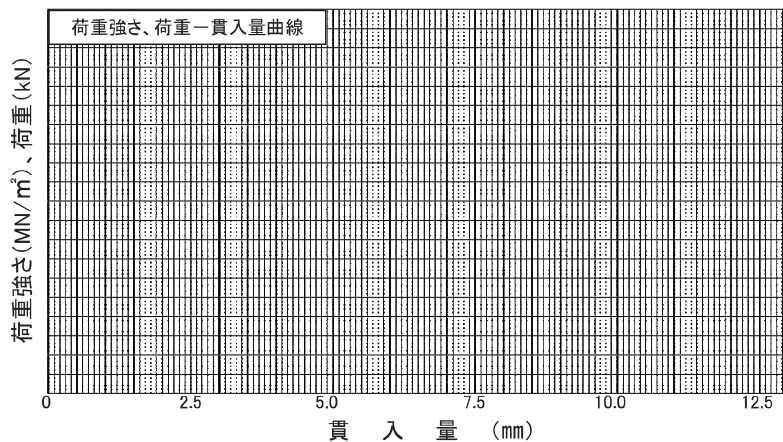
試料採取地点 _____ 採取日 平成 年 月 日 _____ 測定者 _____ 印 _____

貫入スピンドル直径 cm _____ 貫入スピンドル面積 m² _____ 貫入速度 mm/min _____

ジャッキの種類 _____ ジャッキの能力 kN _____ 反力装置の種類 _____

荷重計容量 kN _____ 荷重計の MN/m²/目盛 _____ 天 _____ 候 _____
校正係数 kN/目盛 _____

測点 NO.			荷重計の読み	荷重強さ、荷重 MN/m ² , kN	測点 NO.			荷重計の読み	荷重強さ、荷重 MN/m ² , kN
貫入量の読み mm	貫入量の読み mm	貫入量の読み mm			貫入量の読み mm	貫入量の読み mm	貫入量の読み mm		
1	2	の平均値 mm			1	2	の平均値 mm		
0.0					0.0				
0.5					0.5				
1.0					1.0				
1.5					1.5				
2.0					2.0				
2.5					2.5				
3.0					3.0				
4.0					4.0				
5.0					5.0				
7.5					7.5				
10.0					10.0				
12.5					12.5				
貫入量2.5mmにおけるCBR %					貫入量2.5mmにおけるCBR %				
貫入量5.0mmにおけるCBR %					貫入量5.0mmにおけるCBR %				
CBR %					CBR %				
試験箇所の含水比 w %					試験箇所の含水比 w %				



貫入量mm	2,5	5,0
荷重測点 N O.		
強さ測点 N O.		
標準荷重強さ MN/m ²	6.9	10.3
標準荷重 kN	13.4	19.9

特記事項 _____

[1kN ≒ 102kgf]
[1MN/m² ≒ 10.2kgf/cm²]

(社)地盤工学会規格準用

道路の平板載荷試験
(JIS A 1215)

試験日 平成 年 月 日

工事名 _____ 測定番号 _____

受注会社名 _____

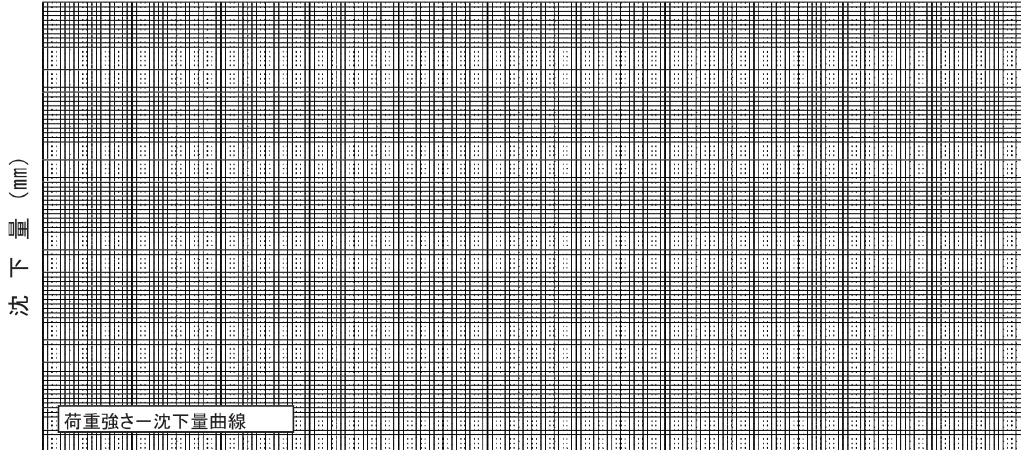
工種名 _____ 測定場所 _____

測定者 _____ 印

載荷板の形状		載荷板の直径 cm		載荷板の面積 A m ²	
ジャッキの種類		ジャッキの能力 kN		反力装置の種類	
荷重計容量 kN		荷重計の校正係数 K kN/m ² /目盛		天候	
計算に用いた沈下量 Smm		荷重強さ p kN/m ²		地盤反力係数 K _s MN/m ²	

時間	荷重計の読み R	荷重強さ p=KR kN/m ²	変位計の読み mm				沈下量 mm
			1	2	3	4	

荷重強さ (kN/m²)



特記事項

K_s=p/S
[1kN/m²≒0.0102kgf/cm²]
[1MN/m²≒0.102kgf/cm²]

(社)地盤工学会規格準用

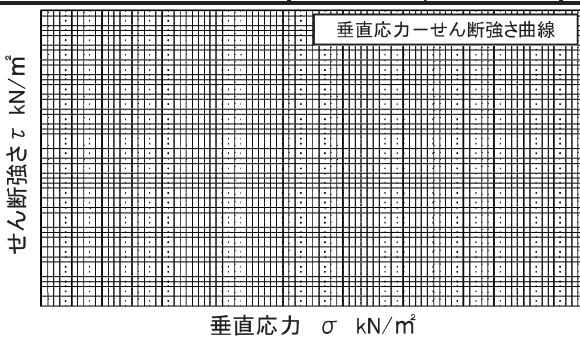
様式 30

土の直接せん断試験

工事名 _____
 調査名・目的 _____
 試料番号 _____
 試料 _____ 料 ▪乱さない ▪乱した
 試料採取深さ _____
 試験機の型 _____
 供試体の断面積 _____ m²
 供試体初期厚さ _____ cm
 供試体初期体積 V _____ cm³
 水の密度 ρ_w _____ g/cm³

試験日 平成 年 月 日
 試験方法 : 圧密排水・圧密非排水・非圧密非排水
 せん断方法 : 応力制御・ひずみ制御
 せん断速度 (载荷速度) _____ kN/m²/min
 せん断力測定用ブルーピングリング NO _____
 換算係数 _____ kN/ $\frac{1}{100}$ mm (kN/m²/目盛)
 先行圧密応力 _____ kN/m²
 土粒子の密度 G_s _____ g/cm³
 受注会社名 _____
 測定者 _____ 印

供試体番号		1	2	3	4	5	6
初期の状態	供試体質量 m	g					
	湿潤密度 $\rho_t = \frac{m}{V}$	g/cm ³					
	含水比 w	%					
	乾燥密度 $\rho_d = \frac{100 \cdot \rho_t}{100 + w}$	g/cm ³					
	間隙比 $e = \frac{G_s \cdot \rho_w}{\rho_d} - 1$						
飽和度 $s_r = w \cdot G_s / e$	%						
圧密の状態	せん断時の垂直応力 σ	kN/m ²					
	载荷(圧密)時間						
	沈下量	cm					
圧密後の状態	供試体体積 V'	cm ³					
	供試体質量 m'	g					
	湿潤密度 $\rho_t' = \frac{m'}{V'}$	g/cm ³					
	含水比 w'	%					
	乾燥密度 $\rho_d' = \frac{100 \cdot \rho_t'}{100 + w'}$	g/cm ³					
	間隙比 $e' = \frac{G_s \cdot \rho_w}{\rho_d'}$						
飽和度 $s_r' = w' \cdot G_s / e'$	%						
せん断時の垂直応力		kN/m ²					
せん断強さ τ		kN/m ²					



粘着力 C = _____ kN/m²

内部摩擦角 φ = _____

tan φ = _____

先行圧密応力に対するせん断強さ

τ_o = _____ kN/m²

注) 含水比の測定は含水量測定試験試料は標準欄フルイ25.4mm

_____ による

ポータブルコーン貫入試験
(JGS 1431)

工事名 _____		測定番号 _____		試験日 平成 年 月 日				
工種名 _____		測定場所 _____		受注会社名 _____				
試験機の種類 単管式、二重管式		荷重計容量 N _____		測定者 _____ 印				
ロッド質量 m_1 kg _____		先端コーン質量 m_0 kg _____		較正係数 KN/目盛 _____				
貫入速度 cm/s _____		最終貫入深さ m _____		コーン底面積 A m^2 _____				
測定深さ m	ロッド本数 n	荷重計読み値 D	貫入力 $Q_{rd}=KD$ N	コーン貫入抵抗 q_c kN/m^2	記事	深さ m	q_c kN/m^2 0 500 1000 1500	
特記事項 _____							$q_c = \{ Q_{rd} + (m_0 + nm_1) 9.81 \} / 1000 / A$ $[1kN/m^2 \approx 0.0102kgf/cm^2]$	

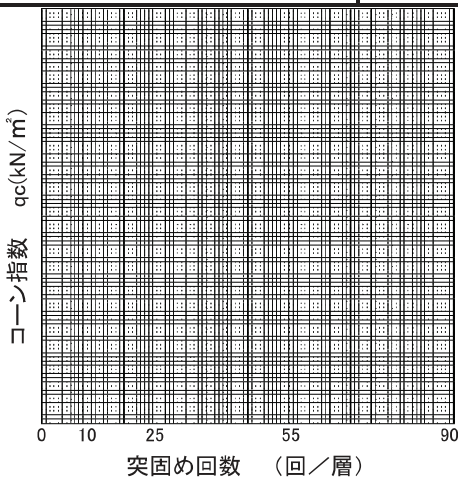
(社)地盤工学会規格準用

締固めた土のコーン指数試験
(JIS A 1228、JGS 0716)

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 _____ 受注会社名 _____

試料採取地点 _____ 採取日 平成 年 月 日 _____ 測定者 _____ 印 _____

土質名称		モールド	NO.		荷重計	NO.		
土粒子の密度 ρ_s g/cm ³			容量 V cm ³	1000		容量 N		
コーンの底面積 A m ²	3.24		(モールド+底板)質量 m ₁ g			較正係数 K N/目盛		
突固め回数 回/層			10	25	55	90		
含水比	容器 NO.							
	(試料+容器)質量 m _a g							
	(炉乾燥試料+容器)質量 m _b g							
	容器質量 m _c g							
	w %							
平均値 w %								
供試体	(供試体+モールド+底板)質量 m ₂ g							
	湿潤密度 ρ_t g/cm ³							
	乾燥密度 ρ_d g/cm ³							
	飽和度 S _r %							
空気間隙率 u _a %								
コーン指数	貫入抵抗力 N	貫入量	荷重計の読み	貫入抵抗力	荷重計の読み	貫入抵抗力	荷重計の読み	貫入抵抗力
		5 cm						
		7.5 cm						
		10 cm						
	平均貫入抵抗力 Q _c N							
コーン指数 q _c kN/m ²								



特記事項

- 1) 突固め回数が1種類の場合は記入の必要はない

水の密度 ρ_w g/cm³

$$w = [(m_a - m_b) / (m_b - m_c)] \times 100$$

$$\rho_t = \frac{m_2 - m_1}{V}$$

$$\rho_d = \frac{\rho_t}{1 + w/100}$$

$$S_r = \frac{w}{\rho_w / \rho_s - \rho_w / \rho_s}$$

$$u_a = \left\{ 1 - \frac{\rho_d}{\rho_w} \left[\frac{\rho_w}{\rho_s} + \frac{w}{100} \right] \right\} \times 100$$

$$q_c = \frac{Q_c}{A} \times 10$$

[1kN ≒ 102kgf]

[1kN/m² ≒ 0.0102kgf/cm²]

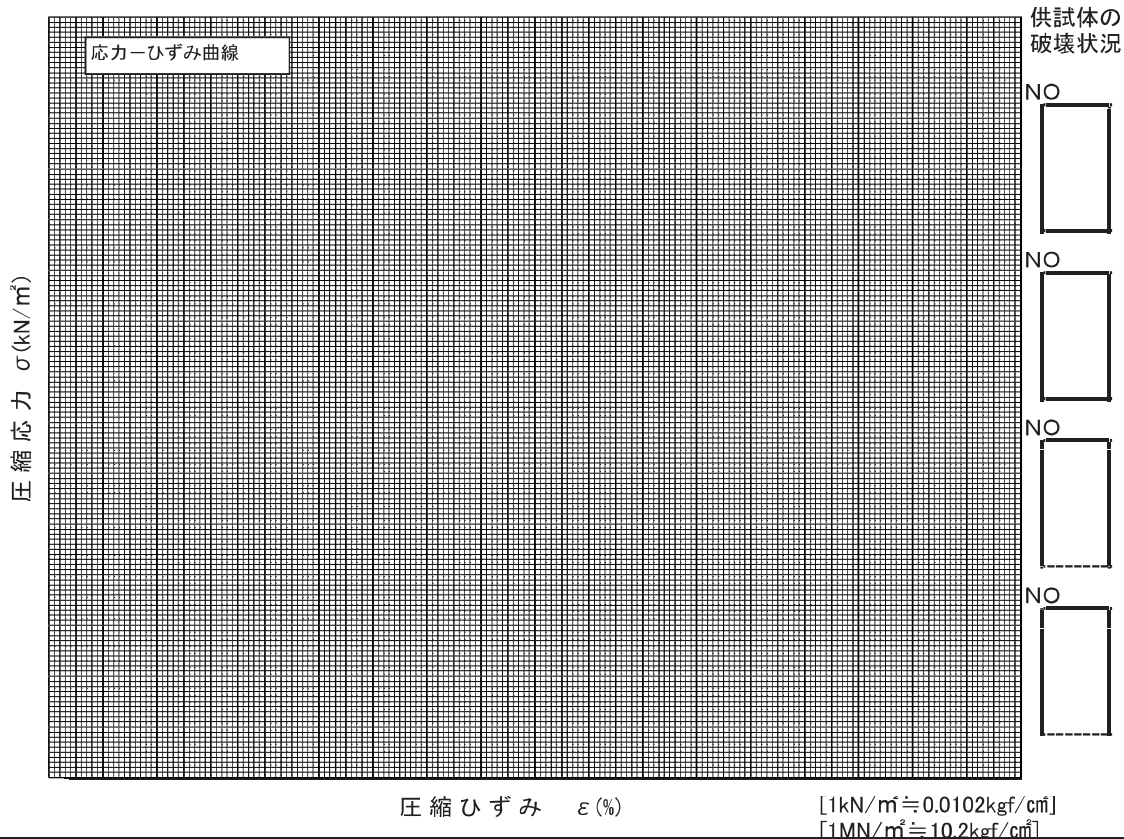
様式 33-2

土の一軸圧縮試験(強度・変形特性)
(JIS A 1216、JGS 0511)

工事名 _____ 受注会社名 _____ 試験日 平成 年 月 日

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

土質名称		供試体 NO.			
液性限界 $w_L^{1)}$ %		試験の状態			
塑性限界 $w_p^{1)}$ %		高さ H_0 cm			
ひずみ速度 %/min		直径 D_0 cm			
特記事項 1) 必要に応じて記載する。 $E_{50} = \frac{q_u}{2 \cdot \epsilon_{50}} / 10$		質量 m g			
		湿潤密度 $\rho_t^{1)}$ g/cm ³			
		含水比 w %			
		一軸圧縮強さ q_u kN/m ²			
		破壊ひずみ ϵ_f %			
		変形係数 $E_{50}^{1)}$ MN/m ²			
		鋭敏比 $S_t^{1)}$			



(社)地盤工学会規格準用

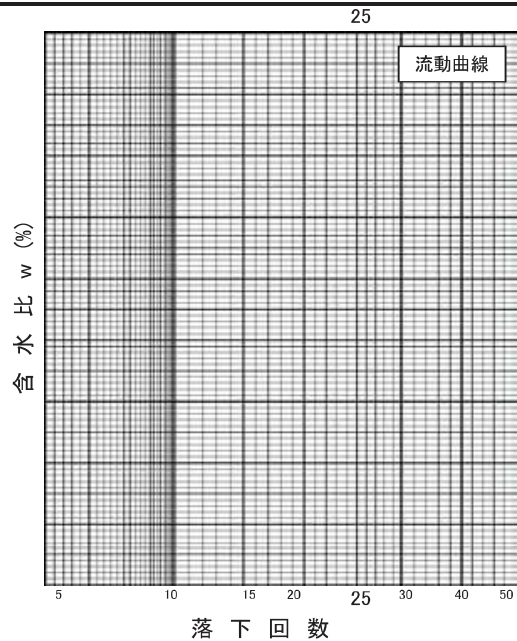
様式 34-1

土の液性限界・塑性限界試験(測定)
(JIS A 1205、JGS 0141)

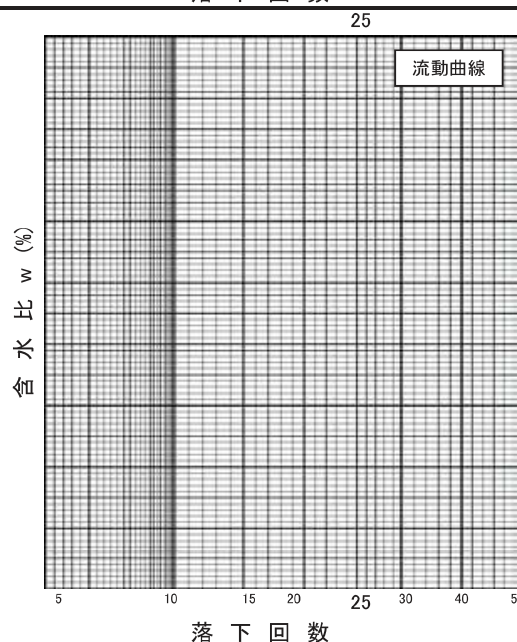
工事名 _____ 受注会社名 _____ 試験日 平成 年 月 日

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試料番号(深さ)		
液性限界試験		
落下回数		
含水比	容器 NO.	
	m _a g	
	m _b g	
	m _c g	
w %		
落下回数		
含水比	容器 NO.	
	m _a g	
	m _b g	
	m _c g	
w %		
塑性限界試験		
含水比	容器 NO.	
	m _a g	
	m _b g	
	m _c g	
w %		
液性限界 W _L %	塑性限界 W _P %	塑性指数 I _p



試料番号(深さ)		
液性限界試験		
落下回数		
含水比	容器 NO.	
	m _a g	
	m _b g	
	m _c g	
w %		
落下回数		
含水比	容器 NO.	
	m _a g	
	m _b g	
	m _c g	
w %		
塑性限界試験		
含水比	容器 NO.	
	m _a g	
	m _b g	
	m _c g	
w %		
液性限界 W _L %	塑性限界 W _P %	塑性指数 I _p



特記事項 _____ $I_p = W_L - W_P$ $w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$ m_a : (試料+容器)質量
 m_b : (炉乾燥試料+容器)質量
 m_c : 容器質量

(社)地盤工学会規格準用

様式 34-2

土の液性限界・塑性限界試験(試験結果)
(JIS A 1205、JGS 0141)

工事名 _____ 受注会社名 _____ 試験日 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試料番号(深さ)

液性限界試験		塑性限界試験		液性限界 W_L %
落下回数	含水比 w %	含水比 w %		
				塑性限界 W_p %
				塑性指数 I_p

試料番号(深さ)

液性限界試験		塑性限界試験		液性限界 W_L %
落下回数	含水比 w %	含水比 w %		
				塑性限界 W_p %
				塑性指数 I_p

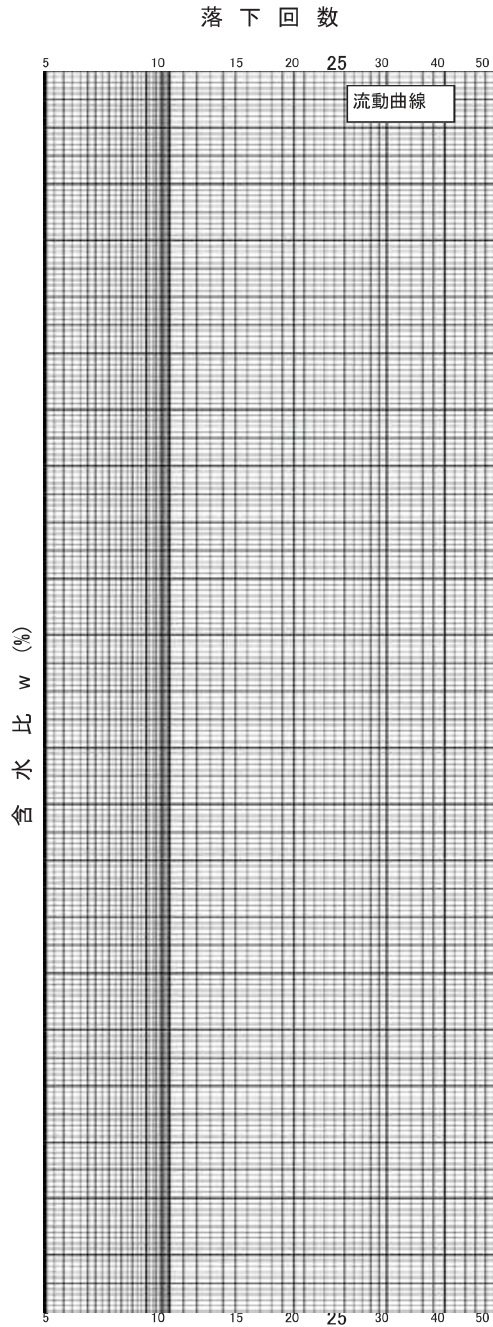
試料番号(深さ)

液性限界試験		塑性限界試験		液性限界 W_L %
落下回数	含水比 w %	含水比 w %		
				塑性限界 W_p %
				塑性指数 I_p

試料番号(深さ)

液性限界試験		塑性限界試験		液性限界 W_L %
落下回数	含水比 w %	含水比 w %		
				塑性限界 W_p %
				塑性指数 I_p

特記事項 _____



(社)地盤工学会規格準用

様式 35

土粒子の密度試験（検定、測定）
 (JIS A 1202、JGS 0111)

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 受注会社名 _____
 工種名 _____ 試料採取地点 _____ 測定者 _____ 印 _____

試料番号（深さ）						
ピクノメーター NO.						
ピクノメーターの質量 m_f g						
（蒸留水+ピクノメーター）質量 m'_a g						
m'_a をはかったときの蒸留水の温度 T' °C						
T' °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T')$ g/cm ³						
（試料+蒸留水+ピクノメーター）質量 m_b g						
m_b をはかったときの内容物の温度 T °C						
T °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T)$ g/cm ³						
温度 T °Cの蒸留水を満たしたときの（蒸留水+ピクノメーター）質量 m_a g						
試料の 炉乾燥質量	容器 NO.					
	（炉乾燥試料+容器）質量 g					
	容器質量 g					
m_s g						
土粒子の密度 ρ_s g/cm ³						
平均値 ρ_s g/cm ³						

試料番号（深さ）						
ピクノメーター NO.						
ピクノメーターの質量 m_f g						
（蒸留水+ピクノメーター）質量 m'_a g						
m'_a をはかったときの蒸留水の温度 T' °C						
T' °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T')$ g/cm ³						
（試料+蒸留水+ピクノメーター）質量 m_b g						
m_b をはかったときの内容物の温度 T °C						
T °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T)$ g/cm ³						
温度 T °Cの蒸留水を満たしたときの（蒸留水+ピクノメーター）質量 m_a g						
試料の 炉乾燥質量	容器 NO.					
	（炉乾燥試料+容器）質量 g					
	容器質量 g					
m_s g						
土粒子の密度 ρ_s g/cm ³						
平均値 ρ_s g/cm ³						

特記事項

$$m_a = \frac{\rho_w(T)}{\rho_w(T')} \times (m'_a - m_f) + m_f$$

$$\rho_s = \frac{m_s}{m_s + (m_a - m_b)} \times \rho_w(T)$$

(社)地盤工学会規格準用

様式 36-1

土の粒度試験（ふるい分析）
(JIS A 1204、JGS 0131)

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 試料採取地点 _____ 測定者 _____ 印 _____

全 試 料				2mmふるい通過試料(沈降分析を行わない場合)			
含水比	容器 NO.			容器 NO.			
	m_a g			m_a g			
	m_b g			m_b g			
	m_c g			m_c g			
	w %			w_1 %			
	平均値w %			平均値 w_1 %			
(全試料+容器)質量 g				(2mmふるい通過試料+容器)質量 g			
容器(NO.)質量 g				容器(NO.)質量 g			
全試料質量 m g				2mmふるい通過試料の質量 m_1 g			
全試料の炉乾燥質量 $m_s = \frac{m}{1+w/100}$ g				2mmふるい通過試料の炉乾燥質量 $m_{1s} = \frac{m_1}{1+w_1/100}$ g			
2mmふるい残留分の水洗い後の試料	(試料+容器)質量 g			全試料の炉乾燥質量に対する2mmふるい通過試料の炉乾燥質量比 $\frac{m_{1s}-m_{os}}{m_s}$			
	容器(NO.)質量 g						
	炉乾燥質量 m_{os} g						

2mmふるい残留分 m_{os} のふるい分析

ふるい	容器No.	(残留試料+容器)質量	容器質量	残留試料質量	加積残留試料質量	加積残留率	通過質量百分率P(d)
mm		g	g	$m(d)$ g	$\sum m(d)$ g	$\frac{\sum m(d)}{m_s} \times 100$ %	$(1 - \frac{\sum m(d)}{m_s}) \times 100$ %
75							
53							
37.5							
26.5							
19							
9.5							
4.75							
2							

2mmふるい通過分 m_{1s} のふるい分析(沈降分析を行わない場合)

ふるい	容器No.	(残留試料+容器)質量	容器質量	残留試料質量	加積残留試料質量	加積残留率	加積通過率P	通過質量百分率P(d)
μm		g	g	$m(d)$ g	$\sum m(d)$ g	$\frac{\sum m(d)}{m_{1s}} \times 100$ %	$(1 - \frac{\sum m(d)}{m_{1s}}) \times 100$ %	$\frac{m_s - m_{os}}{m_s} \times P$ %
850								
425								
250								
106								
75								

特記事項 $w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$ m_a : (試料+容器)質量 m_c : 容器質量
 m_b : (炉乾燥試料+容器)質量

(社)地盤工学会規格準用

様式 36-2

土の粒度試験(2mmふるい通過分分析)
(JIS A 1204、JGS 0131)

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 受注会社名 _____
 工種名 _____ 試料採取地点 _____ 測定者 _____ 印 _____

2mmふるい通過試料				土粒子の密度 ρ_s g/cm ³
含水比	容器 NO.			塑性指数 I_p
	m_a g			分散装置の容器 NO.
	m_b g			メスシリンダ - NO.
	m_c g			浮ひょう NO.
	w_1 %			メニスカス補正值 C_m
平均値 w_1 %				使用した分散剤、溶液濃度、溶液添加量
(沈降分析用試料+容器)質量 g				
容器 (NO.) 質量 g				全試料の炉乾燥質量に対する2mmふるい通過試料の炉乾燥質量の比 $\frac{m_s - m_{os}}{m_s}$
沈降分析用試料質量 m_l g				
沈降分析用試料の炉乾燥質量 $m_{ls} = \frac{m_l}{1 + w_1/100}$ g				$M = \frac{V}{m_{ls}} \cdot \frac{\rho_s}{\rho_s - \rho_w} \rho_w \times 100$

沈降分析

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
測定時間	経過時間	浮ひょうの読み	測定時の水温	有効深さ		粒径 d	補正係数	加積通過率 P	通過質量百分率 P(d)
	t min	小数部分 r	T °C	L mm	$\sqrt{\frac{30\eta}{g(\rho_s - \rho_w)}}$	$6 \times \sqrt{\frac{F}{t}}$ mm	F	$M \times (\text{③} + F)$ %	$\frac{m_s - m_{os}}{m_s} \times P$ %
	1								
	2								
	5								
	15								
	30								
	60								
	240								
	1440								

ふるい分析(沈降分析を行う場合)

ふるい	容器No.	(残留試料+容器)質量	容器質量	残留試料質量	加積残留試料質量	加積残留率	加積通過率 P	通過質量百分率 P(d)
μm		g	g	m(d) g	$\sum m(d)$ g	$\frac{\sum m(d)}{m_{ls}} \times 100$ %	$(1 - \frac{\sum m(d)}{m_{ls}}) \times 100$ %	$\frac{m_c - m_{os}}{m_s} \times P$ %
850								
425								
250								
106								
75								

特記事項

懸濁液の体積 $V=1000\text{cm}^3$
 $T^\circ\text{C}$ に対する水の密度 ρ_w g/cm³
 $T^\circ\text{C}$ に対する水の粘性係数 η Pa·s
 $w = [(m_a - m_b) / (m_b - m_c)] \times 100$
 m_a : (試料+容器)質量
 m_b : (炉乾燥試料+容器)質量
 m_c : 容器質量

(社)地盤工学会規格準用

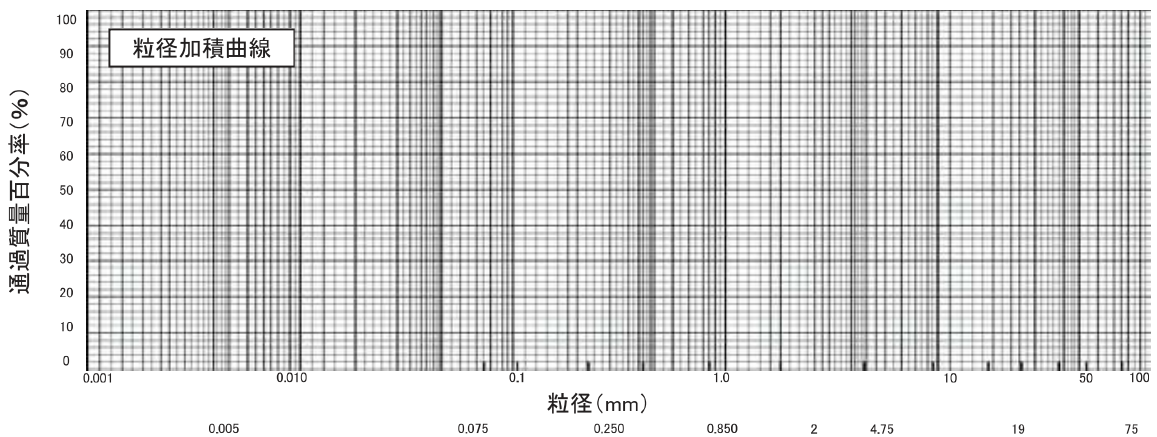
様式 36-3

土の粒度試験（粒径加積曲線）
(JIS A 1204、JGS 0131)

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 試料採取地点 _____ 測定者 _____ 印 _____

試料番号 (深さ)					試料番号 (深さ)		
	粒径mm	通過質量百分率%	粒径mm	通過質量百分率%		粗 礫 分 %	
ふるい分析	75		75		中 礫 分 %		
	53		53		細 礫 分 %		
	37.5		37.5		粗 砂 分 %		
	26.5		26.5		中 砂 分 %		
	19		19		細 砂 分 %		
	9.5		9.5		シルト分 %		
	4.75		4.75		粘 土 分 %		
	2		2		2mmふるい通過質量百分率 %		
	0.850		0.850		425 μ mふるい通過質量百分率 %		
	0.425		0.425		75 μ mふるい通過質量百分率 %		
	0.250		0.250		最大粒径 mm		
	0.106		0.106		60% 粒径 D_{60} mm		
0.075		0.075		50% 粒径 D_{50} mm			
沈降分析					30% 粒径 D_{30} mm		
					10% 粒径 D_{10} mm		
					均等係数 U_c		
					曲率係数 U_c'		
					土粒子の密度 ρ_s g/cm ³		
					使用した分散剤、溶液濃度、溶液添加量		



粘土	シルト	細砂	中砂	粗砂	細礫	中礫	粗礫
----	-----	----	----	----	----	----	----

特記事項

(社)地盤工学会規格準用

様式 37-1

突固めによる土の締固め試験(測定)
(JIS A 1210、JGS 0711)

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 試料採取地点 _____ 測定者 _____ 印 _____

試験方法		土質名称			
試料の準備方法	乾燥法、湿潤法	ランマー質量	kg		内径 cm
試料の使用方法	繰返し法、非繰返し法	落下高さ	cm		高さ ¹⁾ cm
含水比	試料分取後 w ₀ %	突固め回数	回/層	モールド	容量 V cm ³
	乾燥処理後 w ₁ %	突固め層数	層		質量 m ₁ ²⁾ g

測定 NO.	1	2	3	4
(試料+モールド)質量 m ₂ ²⁾ g				
湿潤密度 ρ _t g/cm ³				
平均含水比 w %				
乾燥密度 ρ _d g/cm ³				
含水比	容器 NO.			
	(試料+容器)質量 m _a g			
	(炉乾燥試料+容器)質量 m _b g			
	容器質量 m _c g			
	w %			
含水比	容器 NO.			
	(試料+容器)質量 m _a g			
	(炉乾燥試料+容器)質量 m _b g			
	容器質量 m _c g			
	w %			
測定 NO.	5	6	7	8
(試料+モールド)質量 m ₂ ²⁾ g				
湿潤密度 ρ _t g/cm ³				
平均含水比 w %				
乾燥密度 ρ _d g/cm ³				
含水比	容器 NO.			
	(試料+容器)質量 m _a g			
	(炉乾燥試料+容器)質量 m _b g			
	容器質量 m _c g			
	w %			
含水比	容器 NO.			
	(試料+容器)質量 m _a g			
	(炉乾燥試料+容器)質量 m _b g			
	容器質量 m _c g			
	w %			

特記事項

- 1) 内径15cmのモールドの場合はスペーサーディスクの高さを差引く。
- 2) モールドの質量は底板を含む。

$$\rho_d = \frac{\rho_t}{1+w/100} \quad w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

(社)地盤工学会規格準用

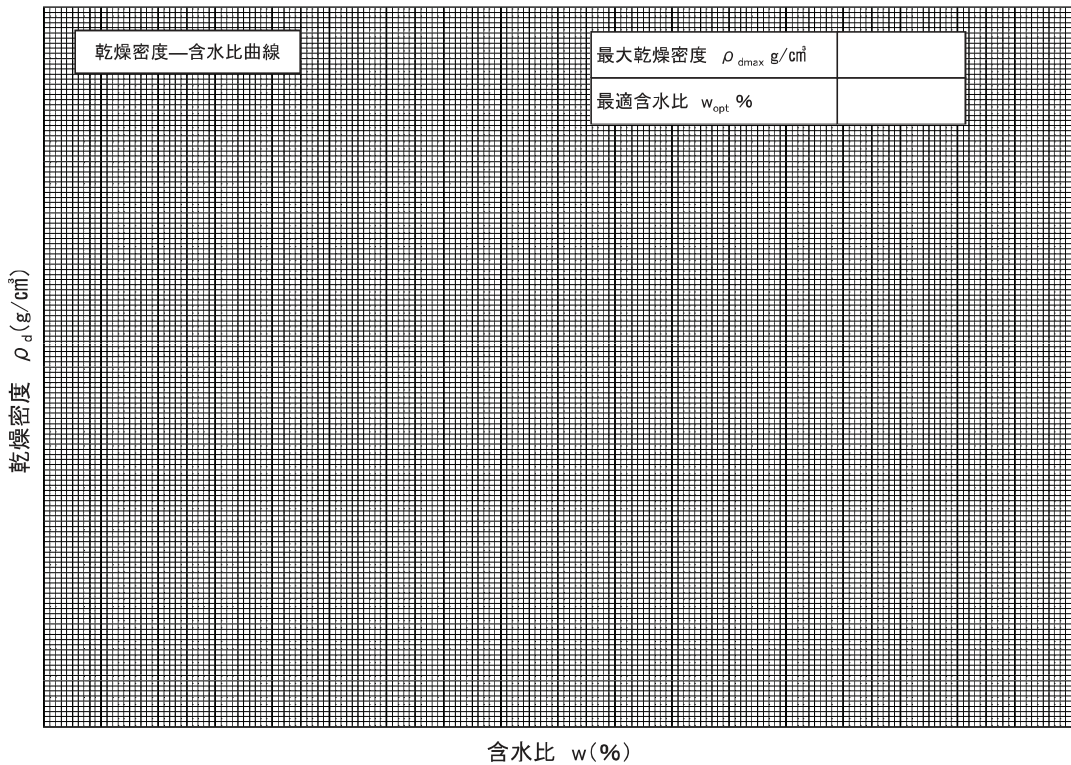
様式 37-2

突固めによる土の締固め試験(締固め特性)
(JIS A 1210、JGS 0711)

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 受注会社名 _____

工種名 _____ 試料採取地点 _____ 測定者 _____ 印 _____

試験方法			土質名称					
試料の準備方法	乾燥法、湿潤法		ランマー質量 kg		土粒子の密度 ρ_s g/cm ³			
試料の使用方法	繰返し法、非繰返し法		落下高さ cm		試料調製前の最大粒径 mm			
含水比	試料分取後 w_0 %		突固め回数 回/層		モールド	内径 cm		
	乾燥処理後 w_1 %		突固め層数 層			高さ ¹⁾ cm		
測定 NO.	1	2	3	4	5	6	7	8
平均含水比 w %								
乾燥密度 ρ_d g/cm ³								



特記事項

- 1) 内径15cmのモールドの場合はスぺーサーディスクの高さを差引く。

ゼロ空気間隙曲線の計算式

$$\rho_{dsat} = \frac{\rho_w}{\rho_w/\rho_s + w/100}$$

(社)地盤工学会規格準用

(アスファルト関係)

様式 38

アスファルト試験成績一覧表

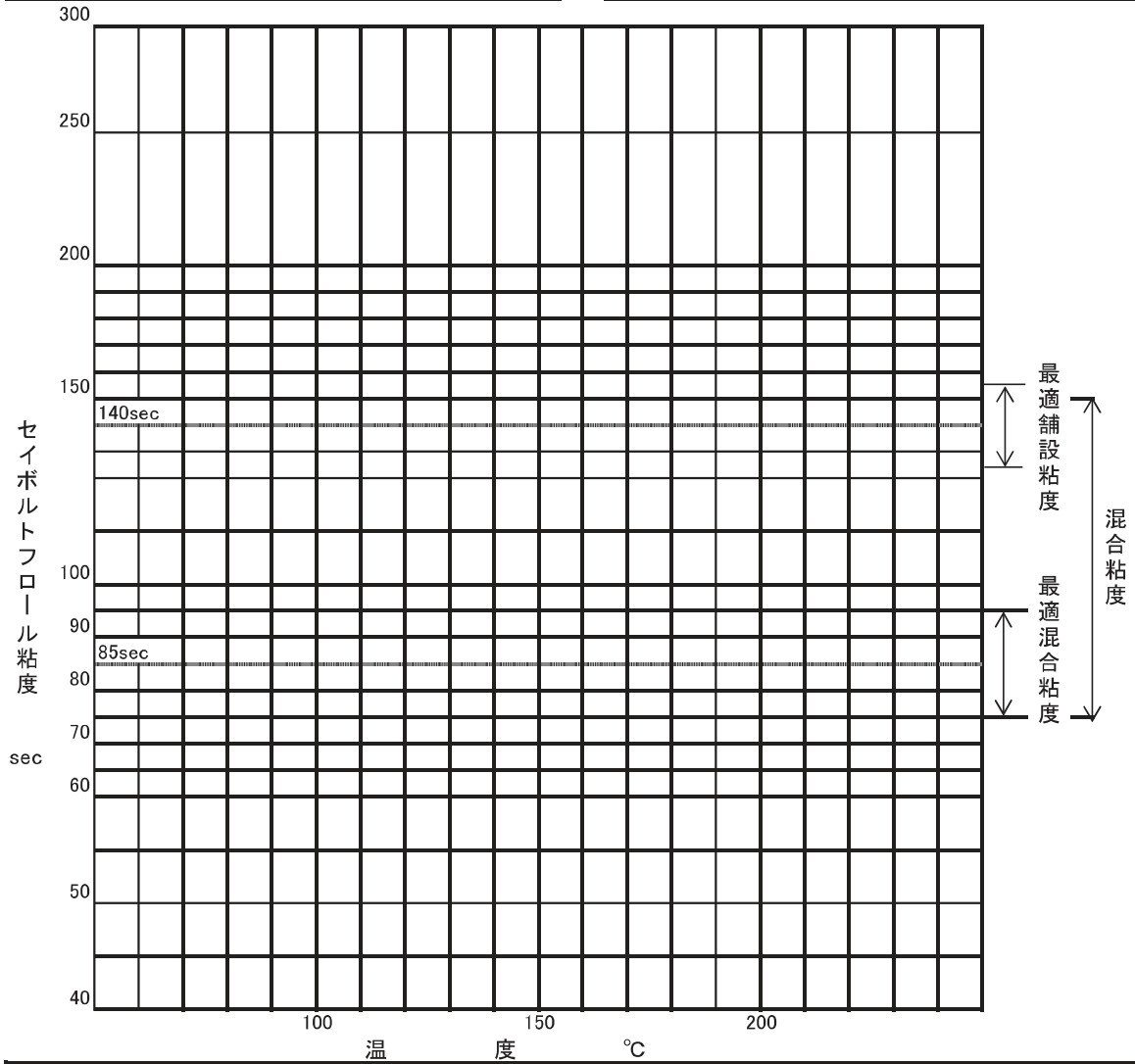
工事名		受注会社名		
工種名		測定者		印
分類				
用途				
製造会社				
密度 (25°C/25°C)	規格	規格	規格	規格
軟化点 °C	規格	規格	規格	規格
針入度	(0°C, 200g, 60秒)	※		
	(25, 100, 5)	規格	規格	規格
	(46, 50, 5)	※		
伸度	(25°C)cm	※		
	(15)cm	規格	規格	規格
	(10)cm	※		
	(5)cm	※		
薄膜加熱重量変化 %	規格	規格	規格	規格
薄膜加熱後の針入度 %	規格	規格	規格	規格
蒸発後の針入度比 %	規格	規格	規格	規格
三塩化エタン可溶分 %	規格	規格	規格	規格
引火点 °C	規格	規格	規格	規格

※は分類につき3,000ton以上使用するものに行う。
アスファルトメーカーが行った場合は日本道路協会規格による。

試験所名

アスファルトの粘度温度表

工事名 _____ 受注会社名 _____
 工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____



	記号	種類	加熱温度	混合温度	舗設温度
最適温度			± °C	± °C	± °C
			± °C	± °C	± °C
現場温度 管管度			± °C	± °C	± °C
			± °C	± °C	± °C
混合舗設間温度低下推定					± °C

様式 40

粗骨材試験成績一覧表(碎石)

工事名		受注会社名		
工種名		測定者		印
種	類			
用	途			
産	地			
生	産	会	社	
原	石	種	類	
粒度 (通過量%)	53	mm		
	37.5			
	31.5			
	26.5			
	19			
	13.2			
	9.5			
	4.75			
2.36				
密		度		
単位体積質量(標準)		kg/m ³		
"		(軽装) kg/m ³		
安		定	性	%
吸		水	率	%
す		り	へ	り
減		量		%
洗い試験で失われる量				%
軟		石	量	%
細長、扁平(質量)				%
"		(箇	数)	%
総		試	料	質
量		kg		
アルカリシリカ反応	試験結果			
試験(JIS A 5308)	試験方法			
試	験	年	月	日
試	験	機	関	名

様式 41

細骨材試験成績一覧表(砂)

工事名		受注会社名		
工種名		測定者		印
種	類			
用	途			
産	地 河 川 名			
	市 郡 町 村			
生	産 会 社			
粒 度 (通 過 量 %) ()	4.75 mm			
	2.36			
	0.6			
	0.3			
	0.15			
	0.075			
	F・M			
密	度			
単位体積質量(標準) kg/m ³				
" (軽装) kg/m ³				
安	定 性 %			
吸	水 率 %			
洗い試験で失われる量 %				
粒形判定実績率				
総試料質量 kg				
アルカリシリカ反応	試験結果			
試験(JIS A 5308)	試験方法			
試験年月日				
試験機関名				
備考				

様式 42

石粉及びスクリーニングス試験成績一覧表

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

種	類				
用	途				
産	地				
生	産	会	社		
原	石	の	種	類	
粒 度 (通 過 量 %))	9.5	mm			
	4.75				
	2.36				
	0.6				
	0.3				
	0.15				
	0.075				
密	度				
単	位	体	積	質	量 (標準) kg/m ³
"		(軽	装)	kg/m ³
安	定	性	①	%	
吸	水	率	②	%	
す	り	へ	り	減	量 ③ %
0.075	通	過	分	の	P. I. ④
加	熱	変	質	200	°C ⑤
フ	ロ	ー	試	験	⑥ %
浸	水	膨	張	⑦	%
は	く	離	試	験	⑧ %
総	試	料	質	量	kg
試	験	年	月	日	

注 ①～③はスクリーニングスのみとする。

④～⑧は原石が石灰岩以外の石粉及び合成した場合の0.075通過分の1割以上がスクリーニングス0.075通過分で占める場合のスクリーニングスの0.15通過分について行う。

⑤は200°C ⑥はセメントモルタル用フローテーブルで15回落下200mmの時の石粉に対する水の重量比

様式 43

骨材粒度曲線表(アスファルト)

工事名										平成	年	月	日	印
受注会社名										測定者				
工種名										測定者				

通過 量 %	100	90	80	70	60	50	40	30	20	10	0	0.75	0.15	0.3	0.6	2.36	4.75	13.2	19.0	26.5	31.5	37.5	53.0
殘留 量	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	0	0.75	0.15	0.3	0.6	2.36	4.75	13.2	19.0	26.5	31.5	37.5	53.0

①	④	⑦		⑩		⑬		⑯	
凡	④	⑦	⑩	⑬	⑯	⑲	⑲	⑲	⑲
例	⑤	⑧	⑪	⑭	⑰	⑰	⑰	⑰	⑰
③	⑥	⑨	⑫	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱
種類、産、用途									

様式 44

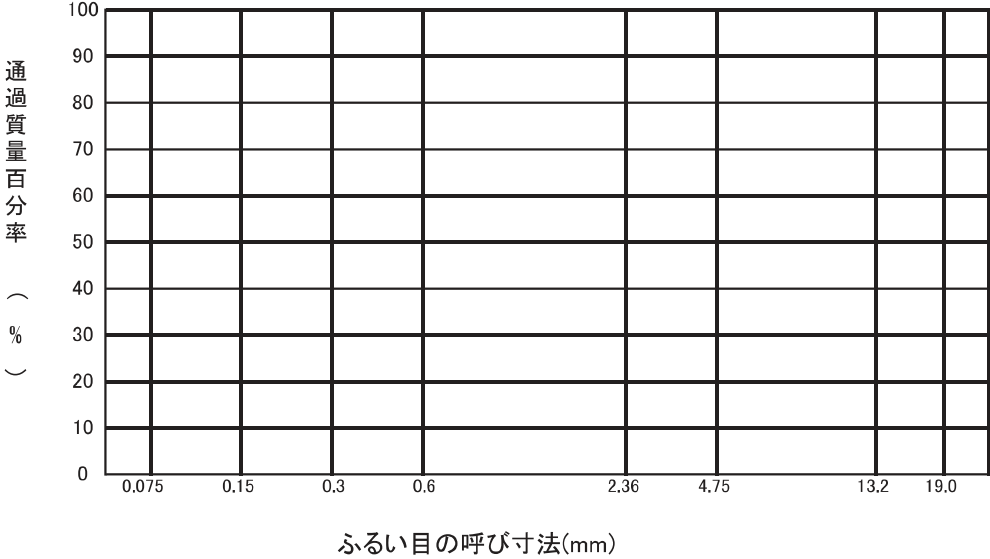
合材粒度ふるい分け試験及び配合比決定例

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印

1. 使用予定骨材のふるい分け試験結果								
ふるいの呼び寸法								
(mm)	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.

2. 使用予定骨材の配合百分率の決定



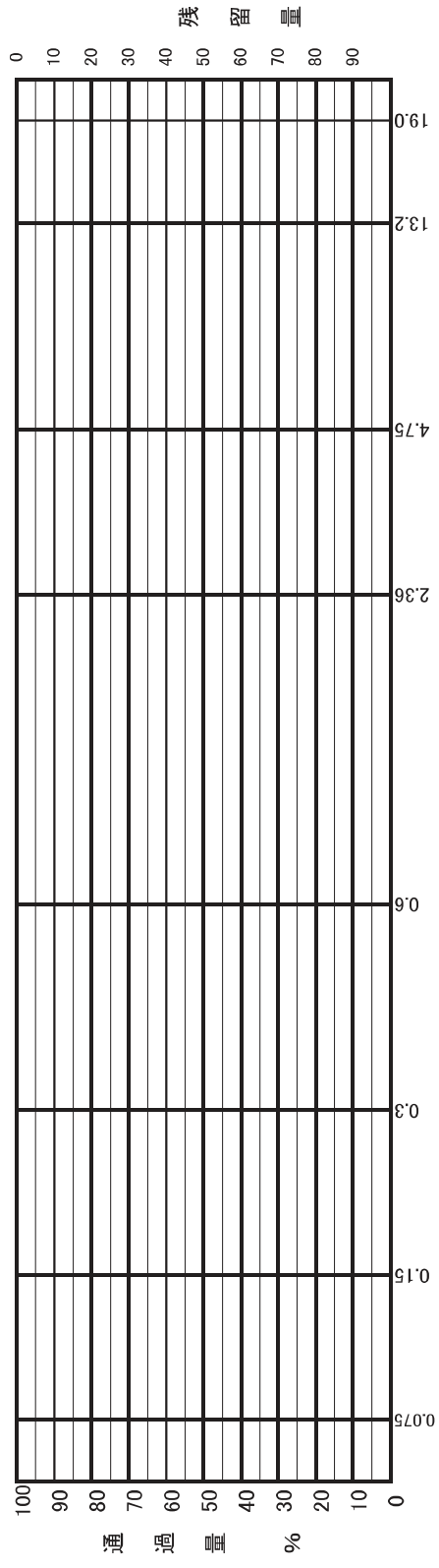
様式 45

骨材の推定変動範囲(細骨材及びスクリーニングス)

試験日 平成 年 月 日

受注会社名
測定者 印

工事名
工事名



凡例		粒径 mm	
①		③	
②		④	

様式 46

骨材配合率の密度補正

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

							(記号) (合材種別) ()
骨材種類							計
配合率 a							100
密度 b							-
a × b							(c)
補正配合率 $\frac{a \times b}{c} \times 100$							100

様式 47

骨材配合率及び合成粒度（室内試験）

試験日 平成 年 月 日

工事名 _____ 受注会社名 _____ 測定者 _____ 印

工種名 _____

骨材種類 配合率 (比重補正)	X		X		X		X		X		合成度 Σ (X配合率)	指定粒度範囲
	原粒度	配合率	原粒度	配合率	原粒度	配合率	原粒度	配合率	原粒度	配合率		
通過量												
53 mm												
37.5												
31.5												
26.5												
19												
13.2												
4.75												
2.36												
0.6												
0.3												
0.15												
0.075												

様式 48

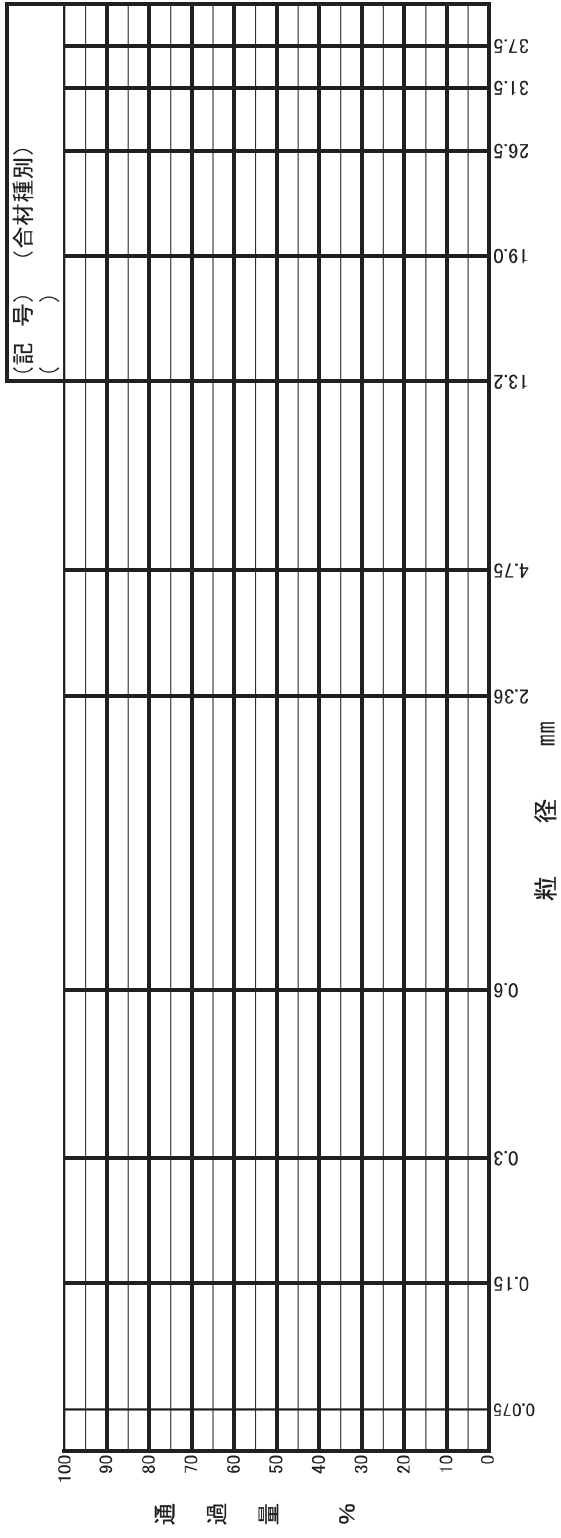
合成粒度曲線(室内試験)

工事名 _____
試験日 平成 年 月 日

工種名 _____
受注会社名 _____

測定者 _____

印 _____



_____ 合成粒度	- - - - - 指定範囲
---------------	-------------------

様式 49

試験配合表（アスファルト量別）

試験日 平成 年 月 日

工事名 _____

受注会社名 _____

工種名 _____

測定者 _____

印 _____

配合区分	アスファルト量%	粗骨材%		石粉 %	合計 %	摘要
		細骨材%	粗骨材%			
A						
B						
C						
D						
E						
F						

（アスファルト針入度 ）

記号
（
合材種別

▪配合区分はアスファルト量0.5%又は0.3%毎に区分すること

様式 50-1

アスファルト混合物の安定度試験
(マーシャル式・理論最大密度)

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試 験 日	平成 年 月 日 曜 天候				
試 験 日 の 状 態	室 温 (°C)	湿 度 (%)	水 温 (°C)		
混 合 物 の 種 類					
理 論 最 大 密 度 の 計 算					
骨 材 の 種 類	産 地 名	① 配 合 比 (%)	② 各 骨 材 の 比 重	③ 係 数	$\frac{①}{②}$
係 数 の 和 = ④ =					
乾 燥 骨 材 の 比 重 = $\frac{100}{④} =$					
⑤ アスファルト 混 合 率 (%)	⑥ アスファルトの 比 重	⑦ $\frac{⑤}{⑥}$	⑧ $\frac{④(100-⑤)}{100}$	⑨ ⑦+⑧	⑩ 理 論 最 大 密 度 $\frac{100}{⑨}$
考 察					

様式 50-2

アスファルト混合物の安定度試験(マシヤル式)

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日
 工種名 _____ 受注会社名 _____
 _____ 測定者 _____ 印

マシヤル安定度試験結果																		
供試体番号	アスファルト混合率(%)	厚さ (cm)				質量 (g)		容積 (cm ³)		密度 (g/cm ³)		アスファルト容積率(%)	空げき率(%)	飽和度(%)	安定度(kN)		フロー値(1/100cm)	
		1	2	3	4	平均	空中	表乾	水中	実測	理論				ゲージの読み	実測値		
①	②	③				④	④'	⑤	⑥	④-⑤ または ④'-⑤'	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
		1	2	3	4	平均				④	⑥	② x ⑦ アスファルトの比重	100 - 100	⑦ ⑧	⑨ ⑨+⑩			

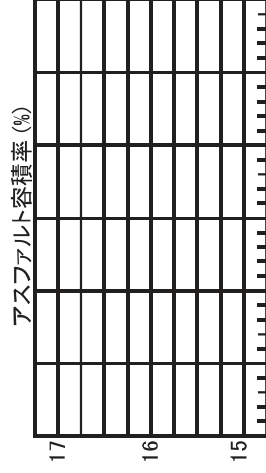
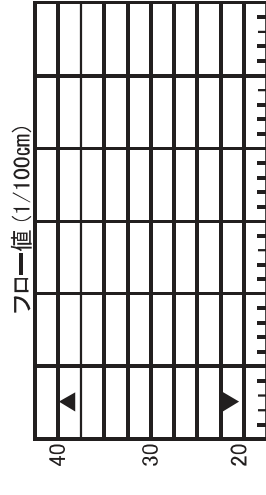
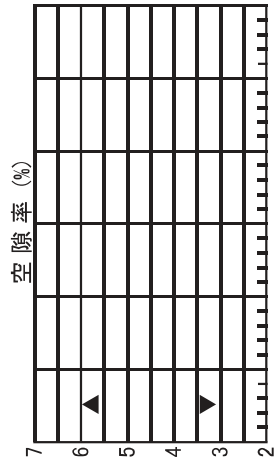
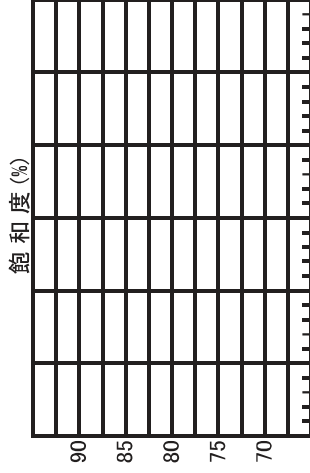
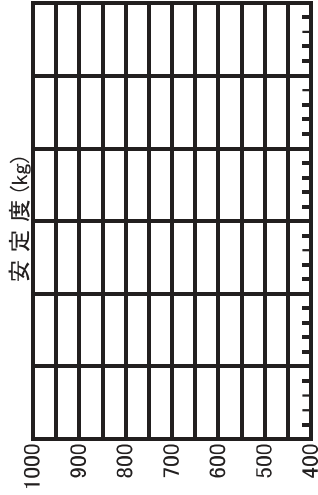
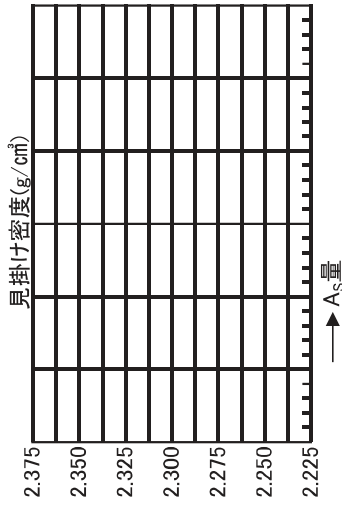
様式 51

試験結果図表

工事名 _____
 工種名 _____

受注会社名 _____
 測定者 _____ 印

(記号) (合材種別)
 ()



注) : 上記の基準値の線は密粒度の1例を示しているの、合材種類が異なる場合は、「アスファルト舗装要綱」により適宜置き換えること。


マーシャル試験による基準アスファルト量

工事名 _____ 受注会社名 _____
 工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

(記号) (合材種別)
 ()

安定度									
フロ―値									
空隙率									
飽和度									
アスファルト量	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	%	
許容範囲									

注：1. それぞれの範囲を  で示し、端部にアスファルト量の数値を付記する。

許容範囲は4項をすべて満足する範囲を  で示し、端部にアスファルト量の数値を付す。

2. 上表の基準値は、密粒度の1例、種別が異なる場合は「アスファルト舗装要綱」による。

基準アスファルト量A

許容範囲の最大値 ①	%
” 最小値 ②	%
A = [$\frac{\text{①} + \text{②}}{2}$]	%

注：アスファルト混合物の一般的な配合設計では、所要の性状を満足し切れない特殊条件のある場合は、現地の実情、過去の実績を勘案して①～Aの範囲で適宜決めること。
 なお、「特殊条件」とはアスファルト舗装要綱による「特殊条件」のことである。

様式 53

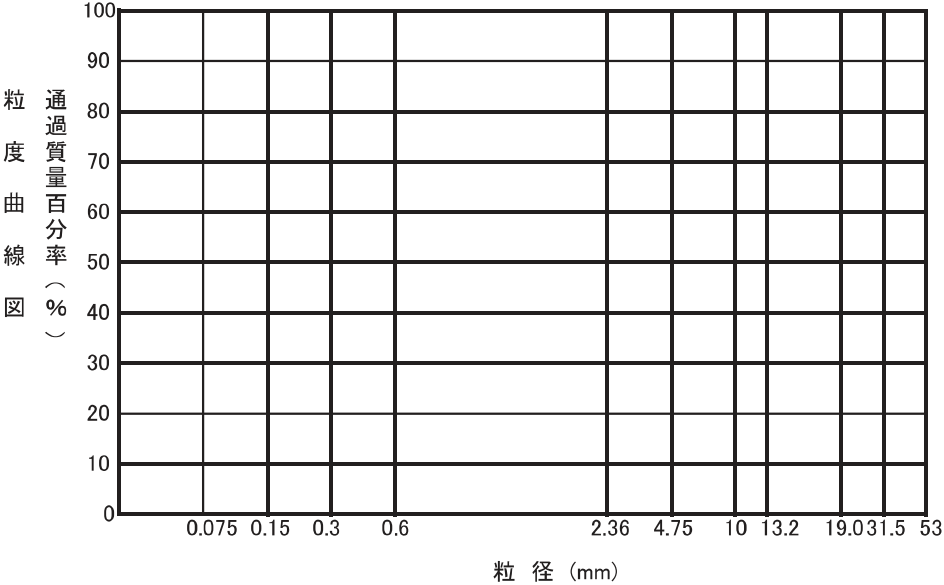
フィーダ、ホットビン、ミキサーの骨材の粒度試験

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試験日 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日	午前 _____ 時 _____ 分
骨材の産地又は製造会社名 _____	午後 _____ 時 _____ 分

	骨材の種類 通過ふるい																		合成 粒度		
各フルイ目の通過質量百分率及び配合率 %	53																				
	37.5																				
	31.5																				
	19.0																				
	13.2																				
	9.5																				
	4.75																				
	2.36																				
	0.6																				
	0.3																				
	0.15																				
	0.075																				
	31.5																				
	19.0																				
	13.2																				
	9.5																				
	4.75																				
	2.36																				
	0.6																				
	0.3																				
0.15																					
0.075																					



様式54

粗骨材のすりへり試験
(JIS A 1121)

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試験日		平成 年 月 日 曜 天候					
試験日の状態		室温 (°C)	湿度 (%)	水温 (°C)	乾燥温度 (°C)		
試験料							
とどまるふるい (mm)	通るふるい (mm)	各群の質量 (g)	各群の質量 百分率 (%)	粒度区分	球の数	回転数	① 試験前の 試料の質量(g)
	2.5						
2.5	5						
5	10						
10	15						
15	20						
20	25						
25	40						
40	50						
50	60						
60	80						
合計			100.0				
②試験後1.7mmふるいにとどまった試料の質量 (g)							
③すりへり損失質量 ①-② (g)							
④すりへり減量 $\frac{③}{①} \times 100$ (%)							
考 察							

様式 55

アスファルトの抽出試験

工 事 名 _____
 工 種 名 _____ 舗装箇所 _____
 試 料 番 号 _____ 受注会社名 _____
 試 験 日 平成 年 月 日 _____ 測 定 者 _____ 印 _____

アスファルト抽出試験結果 (焼却法)				(加圧濾過法)			
採取時		採取時		採取時		採取時	
試 験		試 験		試 験		試 験	
抽出前の試料の質量 g	①	抽出液全容積 cc	⑦	加圧前の口紙の質量 g	⑦		
抽出前の口紙の質量 g	②	焼却前の蒸発皿の質量 g	⑧	加圧後の残留物質量 g	⑧		
抽出骨材質量 g	③	焼却後の蒸発皿の質量 g	⑨	加圧後の口紙の質量 g	⑨		
抽出後の口紙の質量 g	④	石粉の質量 g	⑩	口紙付着石粉質量 g	⑩		
口紙付着石粉の質量 g	⑤	抽出液中の石粉の質量 g	⑪	抽出液中の石粉質量 g	⑪		
抽出全骨材質量 g	⑥						
全骨材質量 g	⑫						
アスファルト量 g	⑬						
アスファルト混合率 %	⑭						
備考							

抽出残留物(骨材)の粒度分布	
通過質量百分率 (%)	100
	90
	80
	70
	60
	50
	40
	30
	20
	10
	0

0 0.075 0.15 0.3 0.6 2.36 4.75 13.2 19.0 31.5
粒径(mm)

抽出残留物のふるい分け結果

採取時 試 験									
	ふるい目 (mm)	各ふるい残留質量 g	各ふるい残留百分率 %	累加残留百分率 %	累加通過百分率 %	各ふるい残留質量 g	各ふるい残留百分率 %	累加残留百分率 %	累加通過百分率 %
	53								
	31.5								
	19.0								
	13.2								
	4.75								
	2.36								
	0.6								
	0.3								
	0.15								
	0.075								
	0.075以下								

路面の平坦性試験表（標準偏差）

工 事 名		測 定 車 線	
		測定器の種類	
施 工 地 名	市 町 郡 村	測 定 年 月 日	年 月 日
受注会社名		測 定 者	印

標準偏差の計算	$\bar{R} = \frac{R_1 + R_2 + R_3 + \dots + R_n}{n}$ $\sigma = \frac{\bar{R}}{d_2}$	d ₂ の値	
		グループの大きさ	d ₂
		6	2.53
		7	2.70
		8	2.85
		9	2.97
		10	3.08

グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)

注) 1. 測定値を作成したのち本表で標準偏差を求める。
 2. 測定方法は「アスファルト舗装要綱」による。

様式57

プルーフローリング試験

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

項目	事項				備考
天候		測定面の含水状況			
試験区間	No. _____ ~No. _____				
載荷車	型式		接地圧		
載荷状況	予備載荷回数	回	本載荷速度	km/h	

試験結果

視察展開図	
視察記事	
異常箇所の処置	

(品質管理関係)

様式 58-1

X - R 管理データシート

工 事 名	受注会社名
工 種 名 (名 称)	測 定 者 印
項目名(品質特性)	作 成 者 印

設 計 基 準 値 A	規 格 値 限 界		測 定 単 位	日 標 準 量
	上 限	下 限		資 料 大 き さ
	+	-		間 隔
				作 業 機 械 名

月 日	測 点	組 番 の 号	測 定 値			計 ΣX	平均値 \bar{X}	範 圍 R		
			X ₁	X ₂	X ₃					
		1							X	R
		2								
		3							平均	\bar{X}
		4							累 計	
		5							小 計	
小計										
		6								
		7								
		8							平均	\bar{X}
		9							累 計	\bar{R}
		10							小 計	
小計										
		11								
		12								
		13								
		14								
		15								
		16								
		17								
		18								
		19							平均	\bar{X}
		20							累 計	\bar{R}
小計									小 計	

(注)	記 事
1. 管理限界線の引直しは、5-5-10-20-20方式による。 2. 21組から40組までは別のデータシートに記入する。以下、20組ごとに同様とする。	

記 入 要 領	1. 「項目名」はコンクリート(セメントの物理試験)、道路工(含水量試験)等の品質特性を記入する。	n	d ₂	A ₂	D ₄
	2. 「月日」の欄は測定年月を記入する。	2	1.13	1.88	3.27
	3. 「番号」の欄はSTA又はロット番号である。	3	1.69	1.02	2.57
	4. 「測点」の欄は当該測点番号を記入する。	4	2.06	0.73	2.28
		5	2.33	0.58	2.11

様式 58-2

̄X - R 管理データシート

工 事 名 _____ 受注会社名 _____
 工 種 名 (名 称) _____ 測 定 者 _____ 印 _____
 項 目 名 (品 質 特 性) _____ 作 成 者 _____ 印 _____

設 計 基 準 値 A	規 格 値 限 界		測 定 単 位	日 標 準 量
	上 限	下 限		資 料 大 き さ 間 隔
	+	-		作 業 機 械 名

月 日	測 点	組 番 の 号	測 定 値			計 ΣX	平 均 値 \bar{X}	範 圍 R	
			X_1	X_2	X_3				
							平均	\bar{X}	\bar{R}
							累 計		
小計							小 計		

特記

(注) 1. 管理限界線の引直しは、5-5-10-20-20方式による。
 2. 21組から40組までは別のデータシートに記入する。以下、20組ごとに同様とする。

記 入 要 領	1. 「項目名」はコンクリート(セメントの物理試験)、道路工(含水量試験)等の品質特性を記入する。	n	d_2	A_2	D_4
	2. 「月日」の欄は測定年月を記入する。	2	1.13	1.88	3.27
	3. 「番号」の欄はSTA又はロット番号である。	3	1.69	1.02	2.57
	4. 「測点」の欄は当該測点番号を記入する。	4	2.06	0.73	2.28
		5	2.33	0.58	2.11

様式 58-3

X - R 管理図

設計基準値		工事標準	名	事業所名	年月日
名称		日	量	自	日
品質特性		規格限界	上限值	間	年
測定単位			下限值	至	日
測定方法		試料	大きさ	受注会社名	
作業機械名			間隔	現場代理人	印

X					
R					

組の番号	
記事	

注) 1.管理図は、別紙X-R管理データシートから記入する。
 2.記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

X-Rs-Rm 管理データシート

名 称		工 事 名		測定	自	年 月 日
品質・特性		事業所名		期間	至	年 月 日
測定単位		日標準量		受注会社名		
規格 限界	上限値	試料	大きさ	現場代理人		印
	下限値		間隔	測定者		印
設計基準値		作業機械名		作成者		

月日	試験 番号	測定値				計 Σ	平均 値 \bar{X}	移動範囲 R_s	測定値 内 の 範 囲 R_m	$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$			
		a	b	c	d					$D_4 \cdot \bar{R}_s =$			
	1								$D_4 \cdot \bar{R}_m =$				
	2												
	3									\bar{X}	\bar{R}_s	\bar{R}_m	
	4								平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	5								累計				
	小計								小計				
	6								$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$				
	7								$D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$				
	8								平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	小計								累計				
	9								$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$				
	10								$D_4 \cdot \bar{R}_s =$				
	11								$D_4 \cdot \bar{R}_m =$				
	12								平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	13								累計				
	小計								小計				
	14								$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$				
	15								$D_4 \cdot \bar{R}_s =$				
	16								$D_4 \cdot \bar{R}_m =$				
	17												
	18												
	19								平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	20								累計				
	小計								小計				
記 事									n	d_2	D_4	E_2	
									2	1.13	3.27	2.66	
									3	1.69	2.57	1.77	
									4	2.06	2.28	1.46	
									5	2.33	2.11	1.29	

- 注) 1. 規格限界、設計基準値は設計図書に定められた値を記入する。
 2. 管理限界線の引直しは5-3-5-7-10-10方式による。

(備考) ————— 管理限界計算のための予備データの区間を示す。
 - - - - - 上記の管理限界を運用する区間を示す。

3. 以下、最近20個(平均値 \bar{x} を1個とする)のデータを用い、次の10個に対する管理限界とする。

X - Rs - Rm 管理データシート の 2

月日	試験番号	測定値計					平均値 X	移動範囲 Rs	測定値内の範囲 Rm			
		a	b	c	d	Σ						
									$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
									平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$
									累計			
	小計								小計			
									$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
									平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$
									累計			
	小計								小計			
									$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
									平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$
									累計			
	小計								小計			
									$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
									平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$
									累計			
	小計								小計			
記事									n	d ₃₁	D ₄	E ₃
									2	1.13	3.27	2.66
									3	1.69	2.57	1.77
									4	2.06	2.28	1.46
									5	2.33	2.11	1.29

注) 1. 管理限界線の引直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。

(備考) ————— 管理限界計算のための予備データの区間を示す。
 上記の管理限界を運用する区間を示す。

2. 以下、最近20個(平均値 x を1個とする)のデータを用い、次の10個に対する管理限界とする。

様式 60

X - Rs - Rm 管理図

設計基準値	工事		事業所名	年月日
	日	標準量		
名称			自	日
品質特性		上限値	至	日
測定単位		規格限界	間	
測定方法		下限値	期	
作業機械名		大きさ	受注会社名	
		間隔	現場代理人	印
X			測定者	印
Rs				
Rm				
組の番号				
記				
事				

注) 1. 管理図は、別紙X-Rs-Rm管理シートから記入する。
 2. 記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。